

平成28年1月20日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 福井県教育委員会
 所 在 地 福井県福井市大手3丁目17-1
 代表者職氏名 教育長 森近 悦治

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ふくいけんりつかつやまこうとうがっこう	ふりがな	ささおか としお
学校名	福井県立勝山高等学校	校長名	笹岡 俊男
ふりがな	かつやましりつかつやまなんぶちゅうがっこう	ふりがな	ひろせ かいじ
学校名	勝山市立勝山南部中学校	校長名	廣瀬 介治
ふりがな	かつやましりつかつやまちゅうぶちゅうがっこう	ふりがな	まつむら のぶゆき
学校名	勝山市立勝山中部中学校	校長名	松村 伸之
ふりがな	かつやましりつかつやまほくぶちゅうがっこう	ふりがな	みずかみ としなり
学校名	勝山市立勝山北部中学校	校長名	水上 俊成
ふりがな	かつやましりつへいせんじしょうがっこう	ふりがな	きたうち のりお
学校名	勝山市立平泉寺小学校	校長名	北内 範男
ふりがな	かつやましりつせいきみなみしょうがっこう	ふりがな	たけうち かずのり
学校名	勝山市立成器南小学校	校長名	竹内 和徳
ふりがな	かつやましりつせいきにししょうがっこう	ふりがな	わにぶち しげる
学校名	勝山市立成器西学校	校長名	鰐渕 茂
ふりがな	かつやましりつむるこしょうがっこう	ふりがな	たけうち あつこ
学校名	勝山市立村岡小学校	校長名	竹内 敦子
ふりがな	かつやましりつみむろしょうがっこう	ふりがな	いしだ のりお
学校名	勝山市立三室小学校	校長名	石田 則男
ふりがな	かつやましりつむきしょうがっこう	ふりがな	にしぎわ じゅんこ
学校名	勝山市立野向小学校	校長名	西澤 順子
ふりがな	かつやましりつあらどしょうがっこう	ふりがな	やまぐち まさのり
学校名	勝山市立荒土小学校	校長名	山口 政則
ふりがな	かつやましりつしかだにしょうがっこう	ふりがな	よしかわ のりお
学校名	勝山市立鹿谷小学校	校長名	吉川 憲男
ふりがな	かつやましりつきたごうしょうがっこう	ふりがな	こばやし やすひろ
学校名	勝山市立北郷小学校	校長名	小林 泰浩

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小中高一貫した学習到達目標に基づいた授業実践により、英語による豊かなコミュニケーション能力を育成する。また、評価の在り方を実践・研究し、児童・生徒の英語力の把握と指導方法の改善を図る。

(2) 研究の概要

小中高一貫した学習到達目標や年間指導計画を作成・活用するとともに、学習到達目標を達成するための指導と評価の在り方について実践・研究する。

小学校では、話すこと・聞くことを中心とした音声指導に重点を置き、自分のことや他人のことを表現し伝え合う力を養う。3・4年では、発達段階を考慮した外国語活動の指導と評価の在り方、5・6年では、読むことと書くことの指導や評価方法を実践・研究する。

中学校と高校では、文法や和訳などの理解中心の授業から、英語を使って意見や考えを伝え合う指導を行う。また、校内試験やパフォーマンステストの改善、外部検定試験の受験を通して、生徒の英語力を把握するとともに、指導方法の改善を図る。

小学校では **Hi, friends!** や文部科学省補助教材、独自教材を活用する。小学6年では中学1年の学習内容を一部指導する、中学校では次学年や高校1年の学習内容を一部指導する中で、学習内容を高度化する。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

勝山市は、福井県の東部に位置し、豊かな自然に加えて国内最大級の恐竜博物館を有し、国内外にその魅力を発信している。

勝山市には3つの中学校があり、それぞれの校下に3つの小学校がある。小学校の児童が基本的に校区の中学校に進学し、その多くが勝山高校に進学するという環境の中で、地域を挙げて学校を支える教育風土が育っている。

また、勝山市内の全小中学校が今年度「ユネスコスクール」に加盟申請をし、環境教育の取組を推進し、その成果を県内外に発信している。勝山市の全中学校が、平成24年度から2年間、福井県英語研究会の研究地域に指定され研究に取り組み、勝山高校でも、平成19年度からSELHiの指定を3年間受け、積極的に研究に取り組んだ。

来年度の本事業の申請にあたって、本事業を市内全小中学校に拡充することで、小中高一貫した英語教育を市全体で推進し、平成32年度から始まる4技能評価型の大学入試「新テスト」に対応する英語力を身につけることを目指す。

今年度の研究成果を受けて、意見や考えを伝え合って考えを深める授業実践と小中高一貫した学習到達目標に基づいた実践を継続する。その中で、小学校では、自分や他人のこと、身の周りのことについて簡単な英語で表現できる力を育成し、併せて、読むこと・書くことの指導方法を含めた英語科の評価方法について研究する。

また、中学校では、自然や恐竜博物館等の勝山市の魅力、環境教育の取組について英語で発信できる力、高校では勝山市の歴史や生活、文化等を英語で発信できる力を育成する。

さらには、地域の学校が一体となって英語研究を推進し、英語で郷土の魅力を県内外に発信することを目指したい。

②研究仮説【小学校の外国語活動】

メッセージを大切にしたコミュニケーション活動を体験する学習を充実することにより、積極的に自分の思いを伝えたり、友達に積極的に関わろうとしたりする力が育成できる。

○仮説に迫るための工夫

3・4年生という発達段階を考慮して、英語の歌やチャンツ、体を動かした活動を行う中で、英語の音声やイントネーションに十分親しませる。気付きを大切にして表現に慣れ親しませる中で、メッセージのやりとりに重点を置いたコミュニケーション活動を行う。

また、福井県独自の補助教材（福井県版グローバル・スタディーズ）を活用して、外国の生活や文化を通して、生きた英語に触れる機会を設定する。

英語加配教員と勝山市雇用の日本人補助講師（2名）が9校の小学校を巡回し、担任とともにティーム・ティーチングで指導する中で、担任の指導力・英語力向上を目指す。

○外国語活動の目標（第3学年及び第4学年）

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

○外国語活動の内容

- (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験する。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりする。
- (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知る。
- (4) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、アルファベットを見ながら発音する。
また、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付く。
- (5) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付く。
- (6) 異なる文化を持つ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深める。

③研究仮説【小中高の英語科】

意見や考えを伝え合ったり深めたりする指導を行えば、4技能がバランスよく育成できる。

○仮説に迫るための工夫

【小学校5・6年の英語科】

パターンプラクティスのような機械的な練習に終始することなく、児童が話したい、聞きたいと思うような必然性のあるコミュニケーション活動を工夫し、自己表現の場面を数多く設定することを通して、身近で簡単なことについて互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養う。

メッセージのやりとりを大切に活動が、読むこと・書くことの意欲的な活動を促すと考える。児童が読みたい、書きたいと感じる活動を工夫する、3年からの音と綴りのつながりに関する指導をする中で、読むこと・書くことに対する態度を育成する。

また、4年生から6年生の学習到達目標を作成・活用し、指導と評価の一体化を進めるとともに、中学への学びにスムーズにつなげていく。

英語加配教員と勝山市雇用の日本人補助講師（2名）が9校の小学校を巡回し、担任とともにティーム・ティーチングで指導する中で、担任の指導力・英語力向上を目指す。

※音と綴りのつながりに関する系統的な指導

○3年から4年間かけて系統的に指導する。

○3・4年（外国語活動）において、アルファベットを見て発音する、アルファベットの音の足し算を行う中で、5・6年（英語科）で行うアルファベットを書く、簡単な英語を書き写したり読んだりする基礎を築く。

[3年] ・アルファベット（大文字・小文字）見て発音

・アルファベットに音があることの認識

・〈他教科との横断的活動〉国語科におけるローマ字指導（ヘボン式）を3学期に行い、外国語活動の学習とスムーズにつながる横断的指導を実施

[4年] ・アルファベットの音の足し算

[5・6年] ・〈他教科との横断的活動〉コンピュータを用いた活動を行う際、ローマ字で入力、ローマ字の定着を促進

[5・6年] ・アルファベット（大文字・小文字）を書く、簡単な英語を書き写す。

・アルファベットの音を足して読む、簡単な英語を読む。

・単語や英文の書き方を学ぶ。

[環境整備] ・校内に英語を用いた掲示物やアルファベット等を掲示する。

○英語科の目標（第5学年及び第6学年）

英語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

○英語科の内容

- (1) 積極的に相手の話を聞いたり話したりする。
- (2) 既習事項を手がかりにして、大まかな内容を理解し、それに応じる。
- (3) 簡単な英語やジェスチャーなどを使って自分のことや身近なことを、聞き手が分かるように伝える。
- (4) 英語の音声やリズムに慣れ、文字を見ながら発音する。

- (5) 音声で慣れ親しんだ表現を書き写したり、アルファベットや絵を手がかりにして読んだりする。
- (6) 日本と外国の言葉や文構造、習慣、文化などの相違から、様々な考え方や物のとらえ方があることに気付く。

【中高の英語科】

4技能を通じて、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から作成した学習到達目標を活用し、指導と評価を一体的に行う。

中学校では、教員が英語を使って授業を行い、身近な話題について互いの意見や考えを伝え合う能力を高め、4技能をバランスよく育成する。その中で、勝山市の自然や恐竜、環境教育の取組に関する独自教材を活用して、勝山市の魅力を英語で発信できる生徒を育てる。

高等学校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高め、考えながら話す即興力の育成を目指す。その中で、勝山市の歴史や生活、文化等を英語で発信できる力を育成する。

また、中高の教員が異校種における指導計画作成、郷土に関する独自教材作成等の協力を行う中で、小学校から中学校、中学校から高校への学びがスムーズに接続するための取組を行う。

③研究成果の評価方法

- ・小学校では3年～6年の児童を対象にしたアンケート、中学校と高校では全生徒対象のアンケートを2回実施（4月、2月）、情意面に関する結果を分析
- ・中学2年～高校3年の全生徒が外部検定試験（GTEC）を受験し、生徒の英語力を客観的に把握、指導方法を改善
- ・評価委員会（県内大学教授、研究校の教員、勝山市指導主事）を組織し、情意面や学力面の結果を分析、今後の指導に反映
- ・研究の進捗状況の確認し、成果と課題を把握するために、小中高連絡協議会、中高英語担当教員連絡会、運営指導委員会を開催
- ・運営指導委員会（外部有識者、関係行政機関）を組織し、研究成果について客観的に評価

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第3学年 1コマ 第4学年 1コマ 第5学年 1コマ	第3学年 1コマ 第4学年 1コマ	第3学年 2コマ 第4学年 2コマ	第3学年 2コマ 第4学年 2コマ
②小学校 教科型	第6学年 2コマ	第5学年 2コマ 第6学年 2コマ	第5学年 3コマ 第6学年 3コマ ※1コマはモジュール授業	第5学年 3コマ 第6学年 3コマ ※1コマはモジュール授業

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

①第一年次

【小学校】

- ・使用教材 3年：Hi, friends!1（35時間）…児童の発達段階を考慮し、Lesson 5まで指導
- 4年：Hi, friends!1（25時間）…児童の発達段階を考慮し、Lesson 4まで指導
県独自教材（10時間：グローバル・スタディーズ）
- 5年：Hi, friends!1（35時間）…通常の外国語活動を実施
- 6年：Hi, friends!2（55時間）…読み・書きを含めて指導
中学1年学習内容（15時間）…中学1年の学習内容を一部指導

- ・小中高一貫した学習到達目標（外国語活動の目標も含む）、評価規準、評価方法、年間指導計画を作成
- ・3～5年においてアルファベットの読み、6年において、アルファベットの読み・書きを指導

【中学校】

- ・使用教材：中学校で使用している教科書
- ・小中高一貫した学習到達目標、年間指導計画と単元計画を作成
- ・生徒・保護者に対して、学習到達目標を公開
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活用
- ・1時間を通して英語を使って授業を行い、意見や考えを重視するコミュニケーション型の授業を実践
- ・教科書内容にとどまらない関連教材（NHKラジオ講座、ALT作成教材、Let's Read、放送テスト、長文速読ワークシート等）を活用
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携

【高等学校】

- ・使用教材：高校で使用している教科書
- ・小中高一貫した学習到達目標を作成
- ・生徒・保護者に対して、学習到達目標を公開
- ・プレゼンテーションやディスカッション、ディベート等の言語活動の高度化に向けた学習内容、教材、評価規準を作成
- ・学習到達目標を達成するために、「指導と評価の年間計画」に基づいて、授業における指導と学習評価を実施
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活用
- ・教科書内容にとどまらない関連教材（福イングリッシュ、ALT作成教材、Let's Read、放送テスト等）を活用
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携

②第二年次

【小学校】

○扱う単元を4つの分野に分けて、バランスよく指導

- ・ communication basic（言語活動を通して、コミュニケーションの素地や基礎を学ぶ）
- ・ words&sound basic（音と綴りのつながり、読む・書く活動への接続）
- ・ cultural understanding（異文化理解・体験）
- ・ English performance（異学年児童との交流活動、生活・文化をテーマに発信する活動）

【3年】

○使用教材

- ・ Hi, friends!1(Lesson1～Lesson5)、デジタル教材
- ・ 県独自教材（福井県版：グローバル・スタディーズ）
- ・ 独自教材（色と数、身の回りの物、お祭りを楽しむ、日本や世界の行事、アルファベットで遊ぶ）

○指導上の配慮事項

- ・4～5月：外国語活動に入るための準備学習として位置づけた活動を実施
 - ・アルファベットを読む、アルファベットの音、音と綴りのつながりを学習
- ※国語科でのローマ字学習を3学期に実施し、外国語活動とのつながりを活かす。

【4年】

○使用教材

- ・Hi, friends!1(Lesson6～Lesson9)、デジタル教材
- ・県独自教材（福井県版：グローバル・スタディーズ）
- ・独自教材（アルファベットで遊ぶ、音の足し算・世界のクリスマス、「おおきなかぶ」の英語劇）

○指導上の配慮事項

- ・アルファベットを読む、アルファベットの音の足し算に関する活動を実施し、音と綴りのつながりを学習

【5年】

○使用教材

- ・Hi, friends!1(前年度に実施しなかった単元：Lesson5～Lesson9)、デジタル教材
- ・Hi, friends!2(Lesson1～Lesson4)、デジタル教材
- ・文部科学省作成の補助教材を活用し、アルファベットの文字の認識、アルファベットの音・単語の認識・文構造への気付きを促進
- ・独自教材（アルファベットを読む・書く、アルファベットの音の足し算、買い物、勝山案内）

○指導上の配慮事項

- ・アルファベット（大文字・小文字）を書く・アルファベットの音の足し算に関する活動を実施し、6年で簡単な単語を書き写すレディネスを向上
- ・他教科での学習と関連させて、郷土に関する学習（勝山案内）を実施
- ・インタビューテスト等の評価テストを実施（年間5回）
- ・英語集会（年間2回）における学習成果の発表

【6年】

○使用教材

- ・Hi, friends!2(Lesson1～Lesson8)、デジタル教材
- ・文部科学省作成の補助教材を活用し、アルファベットの文字の認識、アルファベットの音・単語の認識・文構造への気付きを促進
- ・独自教材（アルファベットを書く・アルファベットの音の足し算、世界のクリスマスやお正月、勝山紹介、中学1年の学習内容を使った発表型学習）

○指導上の配慮事項

- ・アルファベット（大文字・小文字）を書く・音の足し算に関する活動・簡単な英語を書き写す活動を実施し、中学学習へのスムーズな接続を考慮
- ・他教科での学習と関連させて、郷土に関する学習（勝山紹介）を実施
- ・インタビューテスト等の評価テストを実施（年間5回）
- ・英語集会（年間2回）における学習成果の発表

【評価・年間指導計画に関わること】

- ・英語科（5年）の目標、評価規準、評価方法、年間指導計画の作成
- ・各学年の年間指導計画（評価計画を含む）の見直し
- ・授業中の活動における評価方法（見取り方）、5・6年の評価テストの工夫

【その他】

- ・英語加配教員に加えて、勝山市が独自に雇用予定の日本人補助講師（2名）を活用
- ・新たに県が雇用予定の勝山北部中学校AL Tと既に配置済みの2中学AL T、勝山市雇用C I Rを小学校での指導で活用
- ・中学校や高校の公開授業・授業研究会への積極的な参加、研究校における同学年の担当教員による横の連携を促進
- ・平成28年度から行うモジュール授業の年間指導計画や学習内容の検討

【中学校】

○使用教材

- ・教科書（1・2年で次学年の学習内容の一部を取り込んだ発表型学習を含む）
- ・独自教材（教科書で扱われている内容を発展させて、郷土について英語で発信する活動を実施）の作成・活用
- ・教科書内容にとどまらない関連教材（NHKラジオ講座、ALT作成教材、県英語研究会教材（Let's Read、放送テスト）等）を活用

○指導上の配慮事項

- ・英語を使って授業を行い、意見や考えを重視するコミュニケーション型授業の実践
- ・小学校で学んだ言語材料を扱う際に、外国語活動で学んだことを想起させる活動を実施
- ・県独自教材（長文速読ワークシート・福 English）を活用し、高校へスムーズに接続

○評価・年間指導計画等に関わること

- ・1・2年において、次学年の学習内容の一部を指導するための指導計画を作成
- ・学習到達目標を指導と評価の一体化に活用（生徒が自己評価として活用、年間を見据えた評価計画の再考、学習指導案への反映）
- ・校内テストやパフォーマンステストを改善し、生徒の英語力を把握、指導に活用
- ・外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握、指導に活用
- ・小学校や高校の公開授業・授業研究会への積極的な参加、中高の英語教員の連携を促進

【高等学校】

○使用教材

- ・教科書、Reading や Listening のための補助教材（市販）
- ・教科書内容にとどまらない関連教材（県独自教材：福 English、学校独自教材、ALT作成教材、福井県観光資料等、勝山市観光資料等）等を活用

○指導上の配慮事項

- ・英語を使って授業を行い、意見や考えを重視するコミュニケーション型授業の実践
- ・考えて話す即興性の向上を目指した言語活動（リテリング・プレゼンテーション・ディスカッション・ディベート、相手の発話に関連した発表・質問等）を実施

○ディスカッション・ディベート等の実現に関する具体的方法

- 教科書の本文を読んで、各段落のキーワードを探し出し、要約文を完成させる。その内容に対する自分の考えとともに英語で伝える。
[評価方法] 校内テストにおいて、教科書の内容に関する自分の考えを英語で答える問題を出題
- 教科書の本文をフレーズに区切り、強弱をつけて音読する。
[評価方法] 音読テストを実施
- 自分のことや自分の地域について、1分程度の英語で話したり、話された内容を聞いて自分の考えたことを話したりする。
[評価方法] 観察による評価
- 身の回りのことについて1対1での立論・反駁による簡易的なディベートを行う。
[評価方法] 校内テストにおいて、自分の考えを英語で答える問題を出題
- 日々の出来事やその出来事に対して考えたことや気持ちを日記に書く。
[評価方法] 日記を評価
- ディベートの手順やディベートに必要な表現を学び、あらかじめ準備した原稿を見ながらディベートを行う。
[評価方法] ・観察による評価
・校内テストに高校生がアルバイトをすることへ賛成又は反対を述べるなど、社会的な話題に対する意見を述べる問題を出題

○評価等に関わること

- ・学習到達目標を指導と評価の一体化に活用（生徒が自己評価として活用、年間を見据えた評価計画の再考、学習指導案への反映）
- ・校内テストやパフォーマンステストを改善し、生徒の英語力を把握・指導に活用
- ・外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握・指導に活用
- ・中学校や高校の公開授業・授業研究会への積極的な参加、中高の英語教員の連携を促進

③第三年次

【小学校】 ※指導上の配慮事項、評価・年間指導計画に関わることは第二年次を継続・改善

【3年】

○使用教材

- ・ Hi, friends!1(Lesson1～Lesson5)、デジタル教材
- ・ 県独自教材（福井県版：グローバル・スタディーズ）
- ・ 独自教材（色と数、身の回りの物、お祭りを楽しむ、日本や世界の行事、アルファベットで遊ぶ、買い物、校内案内 等）

【4年】

○使用教材

- ・ Hi, friends!1(Lesson6～Lesson9)、デジタル教材
- ・ 県独自教材（福井県版：グローバル・スタディーズ）
- ・ 独自教材（アルファベットの音の足し算、世界のクリスマス、「おおきなかぶ」の英語劇、乗り物、買い物、福笑い、勝山市に関する単語、名所・名物紹介 等）

【5年】

○使用教材

- ・ Hi, friends!2、デジタル教材
- ・ 文部科学省作成の補助教材を活用し、アルファベットの文字の認識、アルファベットの音・単語の認識・文構造への気付きを促進
- ・ 第二年次に作成した独自教材の修正
- ・ 勝山市に関する独自教材の作成・活用
- ・ モジュール授業

【6年】

○使用教材

- ・ Hi, friends!2(Lesson5～Lesson8)、デジタル教材
- ・ 文部科学省作成の補助教材を活用し、アルファベットの文字の認識、アルファベットの音・単語の認識・文構造への気付きを促進
- ・ 独自教材（アルファベットを書く・アルファベットの音の足し算、世界のクリスマスやお正月、中学1年の学習内容を使った発表型学習、英語で他教科を学習、簡単な英文を読む 等）
- ・ 勝山市に関する独自教材を作成・活用
- ・ モジュール授業

【中学校】

○使用教材

- ・ 教科書（1・2年で次学年の学習内容の一部、3年で高校学習につながる内容を取り込んだ発表型学習を含む）
- ・ 独自教材の活用・改善（教科書で扱われている内容を発展させた内容
- ・ 教科書内容にとどまらない関連教材（NHKラジオ講座、ALT 作成教材、県英語研究会教材（Let's Read、放送テスト）等）を活用

○指導上の配慮事項

- ・ 第二年次の取組を継続・改善

○評価・年間指導計画に関わること

- ・ 3年において、高校学習につながる内容を取り込んだ指導計画を作成
- ・ その他は、第二年次の取組を継続・改善

【高等学校】

○使用教材

- ・ 教科書、Reading や Listening のための補助教材（市販）
- ・ 教科書内容にとどまらない関連教材（県独自教材：福 English、学校独自教材、ALT 作成教材、福井県観光資料等、勝山市観光資料等）等を活用

○指導上の配慮事項

- ・ 第二年次の取組を継続・改善

○評価等に関わること

- ・ 中学3年で高校1年の学習内容の一部を指導するにあたって、中学教員に対して学習到達目標や指導計画、指導方法を支援
- ・ その他は、第二年次の取組を継続・改善

○ディスカッション・ディベート等の実現に関する具体的方法

○教科書の本文を読んで、各段落のキーワードを探し出し、キーワードを基に各段落の要点をまとめ、その内容に対する自分の考えとともに英語で伝える。

〔評価方法〕 校内テストにおいて、教科書の内容に関する自分の考えを英語で答える問題を出題

○教科書の本文をフレーズに区切り、リズム・イントネーション・発音に注意して音読する。

〔評価方法〕 音読テストを実施

○自分のことや自分の地域について、写真や資料を見せながら1分程度の英語で話したり、話された内容について意見交換を行ったりする。

〔評価方法〕 観察による評価

- ・ 校内テストにおいて、自分のことや自分の地域について英語で意見を述べたりする問題を出題

○身の回りのことについて1対1での立論・反駁による簡易的なディベートを行う。

〔評価方法〕 観察による評価

- ・ 校内テストにおいて、高校生がアルバイトをすることへ賛成又は反対を述べるなど社会的な話題に対する意見を述べる問題を出題

○ニュース番組や新聞記事を見て、その大まかな内容をまとめ、自分の賛成意見や反対意見、所感などとともに日記に書く。

〔評価方法〕 日記を評価

○外部指導者を招いてディベートの手順やディベートに必要な表現についての理解を深める。

〔評価方法〕 観察による評価

- ・ 校内テストにおいて、社会的な話題に対する意見を述べる問題を出題

④第四年次

【小学校】※指導上の配慮事項、評価・年間指導計画に関わることは第三年次を継続・改善

【3年】

○使用教材

- ・ Hi, friends!1(Lesson1～Lesson5)、デジタル教材
- ・ 県独自教材（福井県版：グローバル・スタディーズ）
- ・ 第三年次までに作成した独自教材の活用・改善

【4年】

○使用教材

- ・ Hi, friends!1(Lesson6～Lesson9)、デジタル教材
- ・ 県独自教材（福井県版：グローバル・スタディーズ）
- ・ 第三年次までに作成した独自教材の活用・改善

【5年】

○使用教材

- ・ Hi, friends!2、デジタル教材
- ・ 文部科学省作成の補助教材を活用し、アルファベットの文字の認識、アルファベットの音・単語の認識・文構造への気付きを促進
- ・ 第三年次までに作成した独自教材の活用・改善
- ・ 勝山市に関する独自教材の活用・改善
- ・ モジュール授業

【6年】

○使用教材

- ・ 第三年次までに作成した独自教材の活用・改善
- ・ 文部科学省作成の補助教材を活用し、アルファベットの文字の認識、アルファベットの音・単語の認識・文構造への気付きを促進
- ・ 勝山市に関する独自教材の活用・改善
- ・ モジュール授業

【中学校】

○使用教材

- ・ 教科書（1・2年で次学年の学習内容の一部、3年で高校学習につながる内容を取り込んだ発表型学習を含む）
- ・ 高校1年で使用する副教材
- ・ 独自教材の活用・改善（教科書で扱われている内容を発展させていた内容
- ・ 教科書内容にとどまらない関連教材（NHKラジオ講座、ALT作成教材、県英語研究会教材（Let's Read、放送テスト）等）を活用

○指導上の配慮事項

- ・ 第三年次の取組を継続・改善

○評価・年間指導計画に関わること

- ・ 3年において、高校1年で使用する副教材の選定、指導計画、評価規準の作成
- ・ 校内テストやパフォーマンステスト、外部検定試験（GTEC）を活用して、4年間の生徒の英語力の推移を分析、指導と評価の関連についても考察
- ・ その他は、第三年次の取組を継続・改善

【高等学校】

○使用教材

- ・ 教科書、ReadingやListeningのための補助教材（市販）
- ・ 教科書内容にとどまらない関連教材（県独自教材：福 English、学校独自教材、ALT作成教材、福井県観光資料等、勝山市観光資料等）等を活用

○ディスカッション・ディベート等の実現に関する具体的方法

- 教科書の本文を読んで、各段落の要点をまとめて、簡単な英語でその内容に対する自分の考えとともに伝える。
[評価方法] 校内テストにおいて、教科書の内容に関する自分の考えを英語で答える問題を出題
- 教科書の本文を用いて、リズム・イントネーション・発音に気を配りながらシャドーイングを行う。
[評価方法] 音読テストを実施
- 自分のことや自分の地域について、外部の人を招いて、スライドなどを見せながら英語で紹介したり、話された内容について意見交換を行ったりする。
[評価方法] ・観察による評価
・校内テストにおいて、自分のことや自分の地域について英語で意見を述べたりする問題を出題
- ニュース番組や新聞記事を見て、その大まかな内容をまとめ、自分の賛成意見や反対意見、所感などとともに日記に書く。
[評価方法] 日記を評価
- 身の周りのことについて2対2での立論・反駁による簡易的なディベートを行う。
[評価方法] ・観察による評価
・校内テストにおいて、高校生がアルバイトをすることへ賛成又は反対を述べるなど社会的な話題に対する意見を述べる問題を出題
- ディベートの手順やディベートに必要な表現を学び、外部の人を招いてディベートを行う。
[評価方法] ・観察による評価
・校内テストにおいて、社会的な話題に対する意見を述べる問題を出題

○指導上の配慮事項

- ・ 第三年次の取組を継続・改善

○評価等に関わること

- ・ 中学3年で高校1年の副教材を指導するにあたって、中学教員に対して学習到達目標や指導計画、指導方法を支援
- ・ 校内テストやパフォーマンステスト、外部検定試験（GTEC）を活用して、4年間の生徒の英語力の推移を分析、指導と評価の関連についても考察
- ・ その他は、第三年次の取組を継続・改善

○平成27年度の進捗状況・課題

1 小学校での進捗状況・課題

(1) 使用教材

① 3・4年（外国語活動）

- ・ Hi, friends!1を使用
- ・ Hi, friends!1にない単元例（多くは香川県直島小学校の実践例を参考）
 - 3年 色と数を使って遊ぼう、英語で何と言うの？、お祭りを楽しもう
クリスマスを楽しもう、日本の行事・世界の行事、アルファベットで遊ぼう
 - 4年 こんな勉強をしているよ、アルファベット、世界のクリスマス、おおきなかぶ
県独自教材（グローバル・スタディーズ）

② 5・6年（英語科）

- ・ Hi, friends!2、Hi, friends! Plus
- ・ Hi, friends!2にない単元例（多くは香川県直島小学校の実践例を参考）
 - 5年 アルファベット、上手に買物をしよう、比べようALTの国・日本の行事
どこの国のもの、勝山を案内しよう
 - 6年 アルファベット、Sound Plus Sound、世界のクリスマス・お正月、英語で勉強しよう、Who am I?、みんな、ありがとう！

※綴りと発音のつながりについて、3年生から系統的に指導している。

(2) 専科教員・支援員と担任とのチーム・ティーチングを通して、担任の指導力を向上

①担任と専科教員等との役割分担

- ・ 昨年度からの研究校では、担任がT1、専科教員等がT2として指導
- ・ 新規校では、専科教員等がT1、担任がT2として指導していたが、徐々に担任がT1を務めるように移行している。

②成果

- ・ 児童が話したい、聞きたいと感じる活動にするための工夫、デモンストレーションの方法、終末における振り返りの方法、教室英語等において、担任の授業力が向上した。
- ・ 指導面において担任に余裕が生まれたことで、児童の発言に対して”Great.” “Wonderful.”等の褒め言葉を使ったり、児童と英語でやりとりができるようになったりした。
- ・ 簡単な英語を使って、担任と専科教員等がデモンストレーションを行うことで、児童が英語に興味・関心を持つようになり、「先生が英語で何を言っているのかを聞こう」という気持ちが高まった。また、話されている英語の意味がはっきりと分からない場合でも、児童は内容を推測して聞くようになった。

③課題

- ・ 平成30年度からの先行実施に向けて、専科教員等に頼らず、担任がT1として指導できることを目指す。
- ・ ALTとのチーム・ティーチングがほとんどなかったため、来年度は、3中学校に配置されているALTを活用した授業を設定する。

(3) 学習目標を達成するための指導と評価の在り方

①メッセージを大切にしたコミュニケーション活動の工夫

i) 児童が「話したい」「聞きたい」状況を設定し、児童の興味・関心を引き出す活動を工夫

3・4年複式 外国語活動 Lesson3 How many? 「三室小クイズに挑戦しよう」

- 「学校」をテーマにしたクイズ作り…自己関与度が高く、背景知識を活性化
- 身近な題材なので、活動への興味・関心が引き出され、児童はクイズ発表会を心待ちにしていた。
- ペアでクイズを作成することをきっかけに、協力して活動する楽しさを体験できた。
- ペアでのクイズ発表会における、話し手と聞き手の学び
 - [話し手] ・「伝えたい」メッセージがあり、意欲的に英語を使っていた。
 - ・ペアで活動したため、互いに教え合いながら活動ができた。
 - [聞き手] ・身近な題材であるため、クイズの内容をイメージしやすかった。
 - ・How many ~? のやりとりをきっかけに、話の内容が広がり、自然な対話につながった。

6年 英語科 Lesson7 What's this?

- What's this?クイズ（背中に貼られた絵が何かを当てる活動）
 - ・背中に絵が貼られているので、「当てたい」「当ててもらいたい」という気持ちが一気に高まった。児童に「言いたい」と思わせるような状況を与えていた。
- What's this?クイズ（3ヒントクイズ）
 - ・児童が今までに学んだ語彙や表現の中から、適切なものを選んでヒントを伝えていた。
- 少人数学級での静かなコミュニケーション活動だったが、4人の児童は、友達のヒントをよく聞き、思考を働かせた活動を行っていた。

ii) メッセージのやりとりを大切にした活動

5年 英語科 Lesson8 I study Japanese. 「先生の好きな教科当てクイズ」

- 先生の好きな教科当てクイズ
 - ・児童にとって身近な題材で自己関与度が高く、先生に関する背景知識を活性化させながら、思考を働かせていた。
 - ・True や False の答えの確認だけでなく、その理由について話すことで、相互理解が深まった。

例 T1: Kocho sensei likes Japanese, but he likes science the best.
He is a science teacher.

S1: えー、本当！（驚き）

S2: 知らなかった！

- 好きな教科について尋ね合う。…自分のことを伝える場の設定
 - ・好きな教科を伝えるだけでなく、理由も付け加えてやりとりを行った。
 - ・デモンストレーションの中で、Why?等を使って好きな理由等を伝えたり、日本語を一部使ったやりとりをしたりしてもよいことを示した。活動では、児童同士のやりとりの内容が深まるとともに、相互理解が深まった。

例) S1: What subject do you like?

S2: I like P.E.

S1: Why?

S2: I like 体を動かすこと.

5・6年 英語科 Lesson8 I study Japanese.

- 自分の「夢の時間割」を作る。
 - ・グループではなく、各自がオリジナルの時間割を作成した。
 - ・「夢の時間割」であり、わくわく感や楽しさがあり、活動への気持ちの高まりが見られた。
- 「夢の時間割」について紹介し合う。
 - ・1時間ずつ科目を時間割にはめ込みながら、紹介する形で発表した。聞き手も興味深く聞いていた。
 - ・自分の考えや思いが明確であるため、自信を持って紹介していた。
 - ・時間割にオリジナリティーがあるため、聞き手が「なぜこのような時間割にしたのか」など興味・関心がわき、たくさんの質問が出た。
 - ・正しい文ではないが、単語でのやりとりが多く見られた。児童の話したい気持ちが表れていた。

iii) 他教科等と関連した活動の工夫

6年 英語科 Lesson2 When is your birthday?

- 友達にバースデーカードを届けよう
 - ・他教科・他領域と関連づけた活動…道徳の授業との関連
 - ・道徳の授業「言葉のおくりもの」では、「友達」をテーマに自分の考えをまとめた。今回の授業を行うにあたり、その学習をいかし、友達のよいところを再認識させてから、メッセージを書くように配慮した。
 - ・学級内の人間関係の希薄化を問題視していたため、その改善策の一つとして、この活動を行った。
- メッセージの授受を重視←バースデーカードを友達に届ける活動
 - ・児童が届ける3枚のバースデーカードには、友達のよい所が書かれている。友達の誕生日を祝うことに加えて、友達のよい所を伝えることで、自己肯定感を高め、良さを認めてくれた友達に感謝するきっかけとなるように仕組んだ。
 - ・“When is your birthday?” “My birthday is ～.” のやりとりには、「カードに書かれた大切なメッセージを届けたい」という児童の思いが伝わっていた。単にカードを渡すだけでなく、カードに込められた児童の思いがあったからこそ、このやりとりはとても意味のあるものとなった。

iv) 成果

- 教員は、メッセージを大切にしたいコミュニケーション活動を行うために、以下の点に留意している。
 - ・必然性のある活動であること
 - ・児童が「話したい」「聞きたい」状況を設定すること
 - ・児童の背景知識を活性化させること
 - ・児童の自己関与度の高い内容を扱うこと
 - ・思考を働かせること
 - ・メッセージのやりとりを大切にしたい活動であること
- 終末の「振り返り」の時間においては、児童が英語を使って話したり聞いたりできたことを発言させるだけでなく、言語活動を通して児童に学んでほしかった点を引き出して全児童と共有するように努めている。

※「今日の授業の感想を发表しましょう。」と問うのではなく、教員が児童に学んでほしかった点について問うと、授業のねらいにそった振り返りができる。
例 気がついたこと、新たに発見したことを发表しましょう。

- 授業を評価するポイントについても、研究協議会で共通理解を深めた。「大きな声でぎやかに活動していること」で授業の善し悪しを評価するのではなく、コミュニケーション活動の中で「児童が話している内容」に注目して授業を参観することが大切である。

v) 課題

- 授業で扱う単語や表現を全部覚えさせ、定着させることを目指すことによって、パターンプラクティスのような機械的な練習になることも見受けられた。語彙を定着させるための練習や活動よりも、教員や児童との英語でのやりとりの中で、児童が言いたいことを引き出せるような活動を工夫することが課題である。
 - 3・4年生に対する指導では、**Hi, friends!**1が3・4年の児童の実態に合っていないため、児童にとって「できるかどうか」を見分けることが大切である。ハードルを低くして、児童が「できた!」という経験を積み重ねることが大切である。
- 例) 3年の児童にとって、1～20の数字を英語で正しく言うことは難しい。

②絵本の活用

i) 3年生の実践例－1

- 単元名 **Lesson 4 I like apples. Hi, friends! 1**
- 表現や語彙 **Do you like ~? Yes, I do. / No, I don't.** 食べ物の名前など
- 絵本名 **The Very Hungry Caterpillar**
- 活動内容
 - ・単元の後半での **Warm-up** で使用する。"What's this?" "How many ~?"などの既習の表現を使って児童とやりとりをしながらストーリーを読んでいく。
 - ・Saturdayのページでは、出てくる食べ物の名前を"What's カップケーキ in English?"と尋ねて新しい語彙も紹介していく。
 - ・簡単な文や語句を児童と一緒に声に出して読ませる。
 - ・全部読んだ後に、中に出てきた食べ物を取り上げて"Do you like ~?"と尋ねたり、友達同士で簡単に会話をしたりする。

ii) 3年生の実践例－2

- 単元名 英語で何というの 動物編
- 表現や語彙 **What's くま in English?** (英語で何というか聞く)、動物の名前
- 絵本名 **Good Night Gorilla**
- 活動内容
 - ・新しい表現を導入する際に使用する。この絵本は、ほとんど文がなく、絵を見ながらお話を想像して進めていくことができる。
 - ・たくさんの動物が出てくるので、"What's ゴリラ in English?"と児童に尋ねながら、一緒に読み進めていく。
 - ・絵本を読んだ後に、動物のカードなどを使って授業を組み立てた。

iii) 4年生の実践例

- 単元名 **Lesson 9 What would you like? ランチメニューをつくろう**
- 表現と語彙 **What would you like? I'd like ~.** 料理の名前
- 絵本名 **What would you like?** (Gakken 大型英語絵本)
- 活動内容
 - ・友達のパーティーに招かれた主人公が、お店に行ってお店に行く話である。"What would you like?"という丁寧な表現を導入する時に使用する。
 - ・「お店の人は何と言っているかな。」と推測させ、物語の台詞を読み進めていく。慣れてきたら、お客さんの言葉を児童に言わせながら一緒に読んでいく。
 - ・ハロウィーンの要素も入っていて、文化的なことにも触れることができる。

iv) 5年生の実践例－1

- 単元名 **Lesson 3 I can swim. できることを紹介しよう**
- 表現と語彙 **I can swim. Can you ~? Yes, I can. / No, I can't.** いろいろな動作
- 絵本名 **I can swim.** (Gakken 大型英語絵本)
- 活動内容
 - ・単元の最初に、新しい表現や語彙を導入する際に使用する。いろいろな動物が登場し、"I can swim. Can you swim?"というかけ合いでお話が進行していく。
 - ・いるかが鳥に"Can you swim?"と尋ねる場面で、児童にも"Can you swim?"と尋ねると、"Yes." "No."という答えが自然に返ってくる。
 - ・Swim, run, fly, hop, digなどの動詞とともに、can=できる、can't=できないなどの新しい表現と出会うことができる。

v) 5年生の実践例－2

- 単元名 Lesson3 I can swim. できることを紹介しよう
- 表現と語彙 I can swim. Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. いろいろな動作
- 絵本名 *From Head to Toe*.
- 活動内容
 - ・単元の途中で、“Can you ~?”の表現に慣れ親しむ活動として読み聞かせをした。
 - ・物語の登場人物のセリフを児童に問いかけ、実際のジェスチャーでやらせてみることで、体を動かしながら物語に入り込んでいた。
 - ・動詞は聞き慣れない難しいものもあるが、絵とジェスチャーで直観的に理解することができ、楽しみながら“Yes, I can.”と答えていた。

vi) 6年生の実践例－1

- 単元名 Lesson5 Let's go to Italy. 友達を旅行に誘おう
- 表現と語彙 I want to go to Italy. I can eat ~. I can see ~. いろいろな国名
- 絵本名 *Where do you want to go?* (Gakken 大型英語絵本)
- 活動内容
 - ・単元の途中で、新しい表現や語彙を導入する際に使用する。
 - ・旅行会社を訪れた主人公とエージェントとの会話でお話が進行する。“Where do you want to go?”と尋ねるエージェントに対して、“I want to go to ~.”と世界のいろいろな国をリクエストしていく。
 - ・大きな絵や写真で名所や食べ物などが出てきて、“What country?” “What's this?”などと児童とやりとりをしながらお話を進めていく。
 - ・最後に、“Where do you want to go?”と児童に尋ね、いろいろな意見が出てきたところで、本時の活動に入っていく。

※その他にも *Dear Zoo* や *Brown Bear, brown bear, what do you see?*、日本の昔話の英語版などの絵本を活用した。

○成果

- ・どの小学校でも、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行っているが、日本語によるお話の読み聞かせと違うのは、児童とやりとりをしながらストーリーを読み進めていったり、繰り返し出てくる言葉や会話、文などを一緒に声に出して読んだりすることである。
- ・絵によって知らない英語の言葉が直観的に分かったり、ジェスチャーを入れたりすることで、日本語を介さずに自然な形で新しい表現や語彙を与えることができるなど、絵本の活用の効果は大きい。
- ・毎回、児童がわくわくしながらストーリーに聞き入ったり、一緒に声を出して読んだりしている。(小学校低学年の国語科の授業の手法とよく似ている。)

○課題

- ・訪問しているすべての学校で取り入れているので、絵本活用のよさはすべての先生が共通理解している。今後は、担任が自分たちで読み聞かせができるように、チャレンジしてレパートリーを増やしていけるとよい。また、1つの絵本を、違う場面で繰り返し活用したり、同じ絵本を少しずつ読み進めていって児童が自然に言えるようにしたりするなど、いろいろな活用方法が考えられる。
- ・ALTと共通理解を行い、Native speakerによる読み聞かせを児童に体験させたい。

③小学5・6年生における「書くこと」「読むこと」に関する指導

○「書く」「読む」指導の流れ

- ・昨年度は第3学年～5学年は外国語活動、第6学年は英語科として授業を進め、6年生のみで「書くこと」「読むこと」を取り入れた。
- ・今年度は、5・6年生が英語科として週2時間の授業を行っている。3年生から英語にふれ、英語を使って様々な体験をすることも考慮に入れながら、段階的に「読む」「書く」の活動を授業に組み込んだ。

学年	学期	読むことに関する指導	書くことに関する指導
3	3	◇アルファベットで遊ぼう ・大文字小文字の形の特徴に気付かせ、アルファベットを使った活動を楽しむ。	(国語科) ローマ字の学習と関連
4 (2年目)	2	◇HF1-Lesson 6 What do you want? ・アルファベット大文字の形、読み方 ◇アルファベットで遊ぼう ・大文字小文字の形の特徴に気付かせ、アルファベットを使った活動を楽しむ。	
	3	◇音の足し算 ・アルファベット文字の特徴的な音を知る。(名前読みと音読み) ・音をつないで簡単な単語を読む。	
5 (2年目)	1	◇HF1-Lesson 6 What do you want? ・アルファベット大文字の形、読み方	◇大文字を書いてみよう ・HF Plus のワークシートを活用して、文字を書く。
	2	◇HF2-Lesson 1 Do you have a? ・アルファベット小文字と大文字の形が似ている字や違う字を見つける。 ・大文字と小文字の読み方を一致させる。 ◇アルファベットで遊ぼう② ・Hi, friends! Plus を活用して文字さがしをする。	◇小文字を書いてみよう ・Hi, friends! Plus のワークシートを活用して、小文字を書く。 ・小文字体操 (文字の高さ・形の認識)
	3	◇アルファベット 音の足し算 ・アルファベット文字の特徴的な音を知る。(名前読みと音読み) ・音をつないで簡単な単語を読む。 ・フォニックスチャンツをする。	・音をつないで読んだ後の活動として、空書した後にノートに書く。 ・Hi, friends! Plus のワークシートを活用して、小文字を含んだ単語を書く。
6 (2年目)	1	◇HF2-Lesson 1 Do you have a? ・アルファベット小文字と大文字の形が似ている字や違う字を見つける。 ・大文字と小文字の読み方を一致させる。 ◇アルファベットで遊ぼう② ・Hi, friends! Plus を活用して文字さがしをする。 ◇アルファベット 音の足し算 ・アルファベット文字の特徴的な音を知る。(名前読みと音読み) ・音をつないで簡単な単語を読む。 ・フォニックスチャンツをする。	今年度は、5年生と同じ内容 ◇小文字を書いてみよう ・Hi, friends! Plus のワークシートを活用して、小文字を書く。 ・小文字体操 (文字の高さ・形の認識) ・音をつないで読んだ後の活動として、空書した後にノートに書く。 ・Hi, friends! Plus のワークシートを活用して、小文字を含んだ単語を書く。
	2	◇音の足し算② ・3文字程度の単語(母音をはさむ)をアルファベットの特徴的な音を足して読む。 ◇アルファベット ・アルファベットの音から推測して読む。 ・単語をひとまとまりにして読む。	・これ以降は、各単元の中で、出てきた単語(例、行きたい国の名前・数字など)を選んで視写する活動を入れていく。 ・出てきた単語を選んで書く。
	3	・活動の中で、これまでに出てきた語や、文を読んでみる。 ・友達の書いた英文を、辞書を使って読んでみる。	・活動の中で、単語だけでなく、文を視写しながら、まとまった文を書いてみる。

- ・書く活動は、単語を覚えたり、コミュニケーション活動で使った表現を覚えたりすること、つまり、定着させることが目的ではない。話すことと同じように、読むことや書くことにも十分に慣れ親しむ段階が必要である。そのため、授業中の活動の中で、聞いたり話したりといった体験を十分に行った後に、チャレンジという形で字を見て読んでみたり、自分で書きたい語を選んで書いてみたりする活動を取り入れ、徐々に「英語の単語が読めた。」「英語が書けた。」「もっと読んだり書いたりしてみたい。」という児童の意欲につなげていきたい。

- ・5年生の段階では、読むこと・書くことに慣れ親しむため、毎時間ではないが、帯活動のような形で3学期の指導を継続していく。
- ・6年生は、中学校への接続も視野に入れ、単語だけでなく、文の書き方のルール、例えば名前（固有名詞など）の書き出しのルール・単語の分かち書き・ピリオドなどについて、スモールステップにして少しずつ、また、繰り返すことを通して、書くことに慣れさせていく。

○成果

- ・3・4年生でも、体を動かすことを取り入れた体験的な活動をすることで楽しんで文字の学習に取り組むことができている。
(例) 大文字と小文字のカードをマッチングさせる活動
似ている字・似ていない字を分類する活動
体で大文字や小文字を作って、みんなでクイズ
身近にある文字を見つける。
- ・5・6年生は、「読む」「書く」指導を1学期から取り入れて、年間を通じて単元を配置することで、繰り返し文字に触れることができた。また、同じ活動から入り少しずつレベルアップすることで、児童が無理なく取り組んでいる様子が見られた。
- ・「書く」指導では、担任と2人で分担してその場で書いているかどうかをフィードバックしていく。指導のねらいは、正しい形で正しい位置に書いているかどうかである。すぐにフィードバックすることによって、児童は安心して取り組めると考える。

○課題

- ・年間の指導計画の中に、「読む」「書く」を中心に指導する単元を独自に設けている。これらの指導は、これまでの「話す」「聞く」ことを中心としたコミュニケーション活動を行う指導内容とはやや異なり、文字の学習という側面が強い。児童の中に、「読む・書く＝難しい」、「読む・書く＝テスト＝覚えなければならない」というような図式ができあがってしまい、興味や意欲を失いかねない。
- ・これらのバランスをどのように取っていくのか、また、「読む」「書く」をどのようにコミュニケーション活動として組み立てていくのかが今後の課題である。
- ・3・4年生から段階的に読む指導を取り入れたことで、来年度の6年生は、さらに余裕を持って、「読む」「書く」指導が行えるようになってきている。一方、中学校との連携を視野に入れて、単元の配置や指導内容を中学校教員と話し合い、検討していく必要がある。

(4) 担任の英語力向上の取組…褒め言葉や教室英語、発音（研究校ごとに創意工夫）

- ・終礼後の5分研修、月曜日終礼後の英会話レッスン（英語主任が先導）
- ・県教委指導主事や教育研究所の所員を招いての夏季研修
- ・模擬授業後の事後検討会で、デモンストレーションや英語による指示の確認
- ・「英語教育推進リーダ中央研修」「英語教育強化地域拠点事業映像資料」等のDVD視聴
- ・英語の絵本の読み聞かせ

(5) 交流活動（異学年交流）（研究校ごとに創意工夫）

- ・英語集会を年間指導計画に位置づけ、学習の成果を発表したり、英語に慣れ親しむ活動を行ったりすることとした。研究校ごとに工夫を凝らした活動を実施した。



【英語劇の上演】



【ALTとの英語集会】



【運動会における英語種目】

例)

- 英語集会（年間3回程度）
- 英語劇（桃太郎、浦島太郎、3匹の子ぶた、大きなかぶ、赤ずきん）の上演
 - ・異学年交流：下学年（1年生や4年生等）、授業参観：保護者、他に、保育園児や地域の人
- 英語の歌を披露
 - ・1・2年生が音楽の時間に練習した BINGO を披露
- English クラブでの活動
 - ・児童数：11名（6年生1名、5年生2名、4年生8名）
 - ・活動頻度 1時間/隔週 計6回（9月から12月まで）
 - ・内容（チャンツ、英語の歌、自己紹介 3 ヒントクイズ、絵本の読み聞かせ、ジェスチャークイズ、異文化理解等）
- 運動会において、英語の種目を採用 2・5年の競技で英語じゃんけん

（6）校外学習等での英語活動（研究校ごとに創意工夫）

①「総合的な学習の時間」における学習と関連づけた英語活動

- ・「勝山いいところ発信隊」の結成...6年生（38人）がふるさと勝山について詳しく調べ、勝山の魅力を多くの人に発信する活動を行うことを目的に、勝山の文化や歴史、自然について、調べ学習や体験学習に取り組んだ。
- ・事前学習では、ホテル・平泉寺・ジオパークの3つのテーマで調べ学習に取り組み、国語科とも連携しながら、勝山の魅力についてまとめたパンフレット作りとPRの練習に取り組んだ。特に、外国人とどのようにコミュニケーションをとるとよいかを考え、今までに学んだ英語を使って、伝えたいことを話す練習をした。
- ・修学旅行では、“Excuse me?” “Hello!”と話しかけ、“I’m from Katsuyama in Fukui.”と自己紹介をしたり、“Where are you from?”と質問したりしながら会話をした。その後、英語で勝山の紹介を行った。外国人も、笑顔で相づちを打ち、“Oh! Nice!” “I want to go to the Dinosaur Museum.”などと反応し、児童もうれしそうな表情でやりとりしていた。



②北郷小学校と鹿谷小学校の6年生交流会

- ・英語による自己紹介と名刺交換

（7）学習環境整備…英語を身近なものにするための環境の整備（研究校ごとに創意工夫）

①授業等の諸活動における英語への慣れ親しみ

- ・朝の会・健康観察、帰りの会、体育などの授業で
- ・物の数や回数、秒数を数える時
- ・学級での活動時に、英語で学習したことを担任が積極的に使うことで、英語を使うことに対する抵抗感を軽減したり、積極的に使ってみようという意欲を高めたりするのに効果があった。

②校内における掲示物

- ・教室 予定黒板：教科カードを英語表記、天気や曜日の英語カード
- ・廊下等 教室名を英語で表記、英語での褒め言葉、英語パズルの掲示、Talking Repeater の設置等

③英語での校内放送

- ・朝 委員会担当の児童が、朝の挨拶や日付、曜日、天気、英語の歌などを放送
- ・給食時（毎週金曜日）…専科教員等が“LUNCH TIME ENGLISH”コーナーを企画（外国の文化や行事の紹介、児童への英語でのインタビュー等）、6年の放送委員がALTへ英語でインタビュー

④英語ルームの設置

- ・英語ルームを設置している研究校もある。明るく楽しい雰囲気になるような掲示物を貼り、児童が活動への意欲を高められるよう工夫している。
- ・英語活動のための教材（市販のカードや手作り教材、絵本等）を保管する場として活用している。

2 中学校での進捗状況・課題

(1) 使用教材

- ・教科書 NEW HORIZON English Course 1～3 (東京書籍)
- ・教科書にない英文にふれる機会として、副-English 長文速読ワークシート (県教委作成) Let's Read、リーディングテスト、放送テスト (福井県英語研究会編)、NHK ラジオ講座等を活用

(2) 英語を使って授業を行い、意見や考えを重視するコミュニカティブな授業の実践

- ①言語活動を行うだけでなく、インタラクションやフィードバックを有効に使うことが教員の課題として認識され、それに関する実践が見られるようになった。

○6月12日の勝山南部中学校での公開授業・研究協議会での協議内容より

①教師が支援することなく、単に言語活動を行うことのデメリット

- ・「ペアワークを3回行い、活動におけるそれぞれの秒数を増やしていく」という活動を行うことにより、英語を話すことに慣れ、友達の様々な意見や考えに触れることができる。しかし、より豊かな発話内容にすることはできない。

②インタラクションの使用が今後の課題

- ・T-S インタラクションや S-S インタラクションを使うことにより、生徒の発話内容や表現力が豊かになるだけでなく、言語形式面の訂正フィードバックも可能になる。

【具体的な方法】(例)

- ・ペアトークごとに活動を止める。生徒とのインタラクション等を通して、内容を深めるための具体的なモデルを示す。
- ・モデルとなる生徒の発話を取り上げ、その工夫に気付かせる。
- ・インタラクション等を通して、言語形式面のフィードバックを行う。

○6月15日の勝山中部中学校での公開授業・研究協議会での協議内容より

①生徒にとって身近な話題を使った活動の設定

- ・金沢での遠足や勝山を扱った内容だったので、生徒の自己関与度が高く、意欲的な活動を引き出すことができた。
- ・勝山市の訪れるべきよい場所を ALT に伝えるという活動を通して、生徒にとって難しい不定詞 (形容詞的用法) を、日本語を介することなく理解・定着させようとしていた。

②インタラクションの使用が今後の課題

☆生徒の意見や考えを拾って板書し、モデルを示す。

- ・生徒のマインドマップから意見や考えの流れを拾う、モデルになる英文を板書するなど、インタラクションを使って、生徒の表現力を高めることができる。

☆コミュニケーション活動は、「意味 (意見や考えの内容)」に加えて、「言語形式の正確さ」に着目して指導する。

- ・今回の授業は、単元のまとめになる授業なので、fluency とともに accuracy の指導も大切である。"Where is a good place to visit in Katsuyama?" という質問に対して、"The Dinosaur Museum."と答えるだけに終わらせない工夫が必要である。

例) T: Where is a good place to visit in Katsuyama?

S: The Dinosaur Museum.

T: The Dinosaur Museum is a good place. Repeat after me.

S: (repeat)

T: The Dinosaur Museum is a good place to

S: The Dinosaur Museum is a good place to visit in Katsuyama.

T: Good. S-san, please say that sentence again.

○1 2月3日の勝山南部中学校での公開授業・研究協議会での協議内容より

①インタラクションの使用により、生徒の言語活動に深まりが見られた。

【インタラクションの効果】

- ・T-Tインタラクションにより、言語活動のモデルを提示
- ・T-Sインタラクションにより、「意味」と「形式」を指導
- ・S-Sインタラクションにより、生徒の言語活動の機会を保障
- ・明示的・暗示的フィードバックにより、言語形式面の訂正フィードバックを実施

②ファシリテーターとしての教員の役割の認識

- ・言語活動において、生徒の意見や考えをやりとりしたり深めたりする際は、教員がファシリテーターとして機能することが大切である。

③授業におけるCAN-DOリストの提示の工夫

- ・今までは単にCAN-DOリストを提示していたが、生徒の学習意欲が高まるような活動をした上でCAN-DOリストを提示した。このことにより、学習課題に対する意欲の高揚が見られるとともに、活動の見通しを持って取り組むことができるようにした。

④誤りを恐れない雰囲気

- ・生徒の情意フィルターが低く、全生徒が意見や考えを伝い合える学級風土が形成されている。

○今後の授業改善

- ・意見や考えを伝え合う、教科書本文の内容に迫る、ターゲットセンテンスの使い方を理解する等の活動において、インタラクションを使った活動を行う。また、生徒のつぶやきをクラス全体に投げかけ、生徒同士の発言をつなぐよう努める。
- ・生徒同士で、自然に英語でやりとりが生まれる働きかけや雰囲気作りに努める。
- ・言語形式面（文法や英語表現上の誤り）だけでなく、内容が豊かな作品や模範となるアイデアを伴う意見を取り上げ、内容を褒めたりモデルとして提示したりすることで、「意味（意見や考えの内容）」を重視するよう努める。
- ・間違いを恐れない雰囲気作りに努め、生徒の情意フィルターを軽減する。

②言語活動の工夫

○背景知識・自己関与度の高い活動の実施

- ・生徒が興味を持ちやすい話題を扱うよう努めた。また、勝山を題材にすることで、生徒にとって身近な地域やことがらを取り上げた。2・3年では、ALTがアンケートで実態を把握して、自作教材等に活用した。
- ・スピーチやスキット等のテーマを考える際に、背景知識や自己関与度を考慮に入れて設定している。特に、自分に関することを中心に設定している。

[スピーチ等のテーマ例]

	1年生	2年生	3年生
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・My favorite ・My family 	<ul style="list-style-type: none"> ・Myself ・わたしの町 	<ul style="list-style-type: none"> ・行きたい国 ・Funny Story ・なりたい職業

[インタビューの質問例]

1年生	How do you spend on Sundays? What did you do last Sunday?	Who is your homeroom teacher? Can you jump rope 100 times?
2年生	What will you do this weekend? What is your family rule?	What do you want to be in the future? What do you think of yourself?
3年生	What is it important for you to do? Why do you study every day?	What do you recommend in Katsuyama? What is your best memory of school days?

○思考を伴った活動

- ・聞く・読む活動では、内容を理解した上で、話に出てくる人物や場所、状況と自分自身や自分の身の回り、自分の置かれた状況を比較しながら理解し、違いを述べたり、どちらがよいかを選択したりして理由をつけて述べさせた。特に3年生では、発展途上国や戦争など自分の生活と異なる状況を理解し、自分たちが国際的な問題や世界平和のためにできることを考えた。

○場面設定の工夫

- 生徒の興味・関心を引きつけたり、伝えたい気持ちを引き出したりするような場面設定を考えて実践した。活動の必然性と自己関与を中心に設定した。

〔実践例〕

学年	単元	活動
1年生	MultiPlus2	「My Day～朝から夜まで密着24時!!」という人気英語番組の視聴者モデルに選ばれ、ディレクターから1日の生活を英語で書いてくるように言われた。
2年生	Unit2 Dialog	パスポートを作成する。 入国するために、審査官（ALT）の質問に答える。
	Unit3	校外学習で訪れた金沢と勝山市を比較し、勝山市の訪れるべき場所をALTに紹介する。
	Multi Plus2	勝山市の魅力を紹介する。（勝山市紹介のポスター作成）
3年生	Speaking Plus3	教師自作の路線図を使い、実際にALTに行き方を説明する。

○帯学習（話す活動が中心、話す活動に加えて他の技能を統合した活動）

・トピックトークキング

黒板に今日のトピックを提示し、30秒で自分の考えをまとめる。お互いに自分の意見を伝え合う中で、聞き手は“Tell me more.”と言って相手の考えを聞き出す。2分間でペアを変え、同じように伝え合う。その後、代表者2人が全生徒の前で意見を伝え合う活動を行う。間違いを気にせずに自分の意見を述べるのが目的なので、気軽に取り組むことができる。その後、ノートに自分の意見や友達の見解の中で参考になるものを書かせ定着をはかる。

・友達が話した内容を伝える活動

授業の最初に授業で扱う題材にあわせて教員がテーマを設定し、生徒がお互いの意見を伝え合う。その後、別の相手に対して、自分の意見と前のペアで聞いた内容を伝える。最後に、自分と相手の内容をレポートとして書かせる。生徒は自分の意見を表現するだけでなく、友達の意見を聞くことにも集中できる。

・4技能を扱った活動（Hybrid4）

4人1グループで「話す」「聞く」「書く」「読む」活動をそれぞれ1分ずつ行う。限られた時間内に多くのメッセージを伝える中で、英語発話の即興性や瞬発力を目指す。

(3) 小学校での学習とのスムーズな接続

○導入において外国語活動で学んだことを想起させた後に、重要文等の導入を行った。

- 道案内やcanを扱う単元において、Hi, friends! で扱われている表現を使った活動を行ったり、生徒が知っている表現を扱ったりした。
- Hi, friends! のデジタル教材を使って、チャンツやリスニング問題に取り組みさせた。

(4) 勝山市に関する独自教材とその指導

勝山市に関するテーマや独自教材を活用することで、生徒の背景知識が活性化され、生徒の興味・関心が高くなり、言語活動が活発になった。

1年	2年	3年
Writing Plus1 ・自分の学校を紹介するポスター スライドを作成し、発表 ・よい作品は本校のHPに掲載予定 Unit10 ・勝山市の紹介 ・勝山市でできること 勝山の冬の風物詩 ・2年生のWarm-upの単元を独自教材として作成・活用	Unit2 ・勝山市の名所紹介 （勝山市の観光ガイドにチャレンジ） Unit3 ・勝山市で訪れるべき場所 Unit5 ・最近の身の回りの出来事を記事にしたポスターを作成 Multi Plus2 ・勝山市紹介のポスター等を作成し、プレゼンテーション 勝山の歴史 ・3年生のWarm-upの単元を独自教材として作成・活用	Unit4 ・外国人に勝山紹介 ・各班で、外国人に勝山市の観光地名所や食べ物を紹介するためのパンフレットを作成、修学旅行（東京）で外国人に「勝山のPR大作戦」を実施 Unit5 ・勝山市に必要なものを考え、英語で意見交換 福-English Episode6 ・Dinosaurの単元を扱い、恐竜について表現活動

(5) 教科書内容にとどまらない関連教材の活用

- Let's Read、リーディングテスト（福井県英語研究会作成）
 - ・授業の導入において、物語中の題材を取り上げて、話す活動に使用
 - ・授業の後半に読解力養成として活用
 - ・週末や長期休業中の課題として使用
- 放送テスト（福井県英語研究会作成）
 - ・Listening 力のチェックとして校内テストで実施
 - ・パフォーマンステストとして活用、理解の評価に加味
↑取組に対する生徒の動機付けが高揚した。
- You Tube のコンテンツ
 - ・外国の文化を知る、表現のニュアンスを学ぶ際に活用
↑ネイティブの英語を聞くよい機会となった。
- NHKラジオ講座
 - ・NHKラジオ講座のスキットコンテストをスキット作りの見本として活用

(6) 校外学習等での英語活動（研究校ごとに創意工夫）

- ①「勝山市ハワイ青少年交流事業」校内報告会
 - ・昨年度「勝山市ハワイ青少年交流事業」に参加した生徒の研修報告会を実施
 - ・生徒が学んだことや感じたことを全校生徒の前でスライドを使って報告
- ②校外学習（金沢）での活動
 - 事前活動
 - ・授業で1週間程度準備を実施
 - ・インタビューしたい内容を英語で考えたり、外国人観光客から聞かれる質問を推測してその答え方を英語で考えたりした後、ALTとリハーサルをした。
 - 当日の活動内容
 - ①外国人観光客に声をかける。
 - ②一緒に写真を撮る。
 - ③勝山市のパフレットを入れた本校オリジナルクリアファイルを渡して、勝山市をPRする。
 - 事後学習
 インタビューのやりとりの様子を写真とともにレポートにまとめて廊下に掲示した。1年生に対して、来年度の取組への啓発となった。



【「勝山市ハワイ青少年交流事業」校内報告会】



【校外学習の様子】



③修学旅行（東京）での活動

- ・渋谷、原宿、浅草、有楽町などに班ごとに分かれ、全生徒が外国人観光客に対して、オリジナルパンフレットを用いながら勝山市の紹介を行った。紹介後は、生徒会が作成したオリジナルファイルに自分たちのパンフレットを添えて外国人に渡した。
- ・外国人記者クラブを訪問し、海外の新聞記者に勝山を紹介する機会も得た。希望の班を募り、紹介する内容を分担して記者に伝えた。



【原宿で】



【外国特派員協会にて】



【メディアの取材】

(7) A L T の活用 (それぞれの中学校に県雇用 A L T を配置) (研究校ごとに創意工夫)

①校内放送

- ・朝の英語放送
日本語と英語の両方で行っている。放送担当生徒と話す内容を考えて放送している。
- ・給食時の校内放送 (週 2 回)
A L T は放送担当の生徒と相談して、その季節にあった内容やクイズを放送している。A L T には 2 年生程度の内容を求めている。A L T ゆっくりとしたスピードで話すため、1 年生は前後の文脈で理解している。また、生徒が作った "What am I?" クイズを放送している学校もある。

②英会話教室

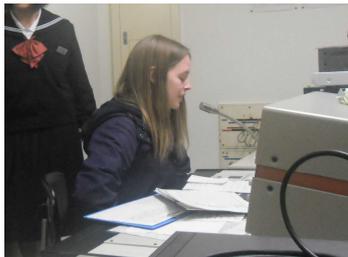
- ・放課後に英会話教室を実施している。2 年生は映像を使って会話を行い、1 年生は画像を使って英会話を行っている。

③教室で生徒とともに給食

- ・A L T が日替わりですべての教室を回り、給食班に混ざって給食を食べ、生徒と会話を楽しむ。生徒達は慣れないうちは苦勞していたが、A L T が来るのはいつかと楽しみにしている生徒もいる。

④校内掲示

- ・教室内の掲示物…英語のことわざを掲示
- ・English Room や英語掲示板の掲示物…授業や日常会話で使える英語表現を掲示する他、ニュースや季節の行事 (ハロウィンやクリスマス等) に関する紹介、生徒が書いた英語のポスターや作文を掲示し、他クラスの生徒のモデルとなる作品を紹介



【給食時の放送を担当している様子】



【英語のことわざ】



【English Room の掲示】

3 高校での進捗状況・課題

(1) 使用教材

- ・MY WAY English Communication I (三省堂)
- ・MY WAY English Communication II (数研出版)
- ・POLESTAR English Communication III (数研出版)
- ・BIG DIPPER English Expression I (数研出版)
- ・BIG DIPPER English Expression II (数研出版)
- ・速読英単語必修編 (Z 会)
- ・Learners' (数研出版)
- ・Heart of Okinawa (浜島書店)
- ・The Spirit of Okinawa Islanders (山口書店)
- ・副-English (県教委作成)、Bridging・放送テスト (福井県英語研究会編) を活用

(2) 意見や考えを伝え合うコミュニケーションな授業実践

①教科書を用いた実践

○Teacher Talk(Oral Introduction) の活用

授業の導入部で Power-Point を用いて写真や絵を提示し、教科書本文の概要を簡単な英語を用いて説明した。その後、New Words を確認して本文読みへ入ることで、生徒が本文の内容を英語のまま理解できることを目指した。

○スラッシュリーディング

- ・年間を通して、英語を英語の語順のまま理解するために、英語をチャンクごとのかたまりでとらえていくことを指導した。
- ・まず、本文の音声を CD で聞かせ、音声の切れ目で斜線を入れさせて、英文をチャンクに分ける。英文の下に日本語の意味を記入する際は、日本語の語順を気にせず、英文の語順のまま意味を記入するように指導した。
- ・音読練習をする際は、このノートを見てチャンクごとに音読することを指導した。後日、音読テストをする際は、チャンクごとに音読しているかを確認した。

President Obama won the Nobel Prize.



○ワークシートを用いた Q&A、T-F

- ・教科書内容について ワークシートを見ながら Q&A、T-F をペアで行う。
- ・Q&A では、生徒が自分の考えや意見を表現できる質問を準備した。
- ・T-F では、単に True か False かを言い合うのではなく、なぜそう思うのかについて、"The textbook says" "The author describes"のように理由を示しながら答えるよう指導した。

○Let's try to speak

- ・教科書本文を理解した後で、本文の内容に関連したトピックを与えて、自分の意見を言い合う活動を行った。
- ・昨年度の公開授業後の研究協議会での指導・助言を活用
トピックを提示した後すぐに **Speaking** に入らせるのではなく、教師がモデルを示すようにした。このことにより、生徒がどのようなことを話せばよいかを理解することができ、安心して活動に取り組むことができるようになった。
- ・トピックの例

- ・ Does Japan need use of force?
- ・ Do you want to visit China?
- ・ Can you stop using air conditioners?
- ・ What was the best phrase that President Obama gave?

○Retelling (Summarizing)

- ・教科書本文を理解した後に、Power Point を用いて要約文からキーワードの部分空欄にした英文を提示し、空欄に入る語を補いながら英文を読む活動を行った。
- ・徐々に空欄の数を増やすことで負荷を高める工夫をした。また、内容を連想させるような絵や写真も一緒に見せながら、苦手な生徒の補助になるような工夫もした。**Retelling** の本来の目標は、絵を見て本文の英文を再現できることだが、段階を踏んで徐々に負荷が高まるように工夫した。

We should realize
 "a world without n_ _"
 _ _ _ _ _ w _ _ _ _ _"

②教科書を用いない実践

○One Minute Talk

- ・ペアで1分間、一方の生徒ができるだけ多くの語数を話す活動
- ・One Minute Talk は以前から **Speaking** に慣れさせることを目的に行っている。
- ・トピック例

日付	トピックの内容
5/ 2	Holidays Plan
5/21	School Day Trip
5/26	Which do you like better, summer or winter?
6/13	The World Cup
6/20	My favorite sport
9/ 8	School Festival
9/26	What I expect on school trip

○Book Review

- ・お薦めの本を英語で紹介したポスターを作成し、教室内に掲示した。
- ・生徒はポスターを読んで評価した。多くの生徒から高評価を受けた作品を表彰した。

- 国際交流の推進...台湾の国立潮州高級中学校からの修学旅行団の訪問・交流（6月）
- ・生徒が外国の人と英語でコミュニケーションを経験する絶好の機会と捉え、できるだけ多くの生徒が台湾の生徒と触れ合えるように計画を立案した。
 - ・台湾の生徒一人一人に案内役の生徒(buddy)を当て、校舎内の案内や昼食等につき添った。
 - ・2年生の英語の授業に参加し、お互いの趣味や学校生活等について話し合った。
 - ・本校生徒全員が体育館での交流会に参加し、英語による挨拶や双方の学校の子供による楽器演奏や踊りを楽しんだ。
 - ・放課後は部活動に参加し、茶道や和太鼓の演奏を通して交流を深めた。



- 全教員による授業研究
- ・英語教育強化地域拠点事業に加えて、県教委から「授業改善重点実施校」の指定を受けた。中高連携を含めた授業改善の取組について、教科の枠を超えて全校体制で取り組むことを始めた。
 - ・教員全員が参加して授業改善について話し合う会議を「夢創生会議」と名付け、学期に一回ずつ行った。また、全教科において公開授業を実施した。
 - ・第2回の英語科公開授業（11月）では、全教職員が研究協議会に出席して、中学校の先生と意見交換を行う様子を観察した。意見や考えを伝え合うコミュニケーション型授業実践が全教科に広がるにはもう少し時間がかかると思われるが、アクティブラーニング等の新しい取組に向けた全教員による共同研究が続いている。

(3) ディスカッション・ディベート等の実現に関する実践

- ①ディベートにつながる基本的な言語活動
- ・すべての学年において、意見や考えを述べる際に用いられる助動詞（should / must / may / ought to / have to / had better）の用法について指導した。
 - ・読み物教材や外部模試に出題された英文から、ロジカルな内容の英文を多く読ませ、意見や考えを英語で説明するための表現を指導した。

[指導の手順]

- ①冒頭部分のトピックセンテンスに意識を向けさせ、どのような表現が用いられているかに注意を向けさせた。
- ②英文の中からサポートの働きをしている英文を探し出し、その英文がトピックセンテンスの根拠を説明する働きをしているかを考えさせた。また、first of all、in addition、therefore、thenなどのつなぎ表現を抜き出し、それらの表現がどのような意味で文と文を結びつけるかについて指導した。

- ・[主に1年生] 読んだ内容をペアになって要約(Summary)したり、言い換え(Retelling)したりすることで、英語を英語のまま理解し、伝えるための活動を行った。
- ・[1・2年生] 音読テストを実施する際には、テキストを読んだ後、自分の考えや意見を付け加えて話すことで、即興で意見を述べる練習を加えた。
- ・[1年生] 人前で意見を述べることに慣れさせるため、学年会の協力を得て「総合的な学習の時間」を活用して、日本語で読んでいる本について紹介する活動(Book Review)を月1回の頻度で行った。
- ・[1年生] 教科書で”This is why~”の表現が出てきた所で、因果関係(Cause and Effect)を説明する練習を行った。”A huge typhoon is approaching.”や”I have an exam this weekend.”等のトピックについてどのような結果が考えられるかペアで活動を行った。
- ・[1・2年生] 英作文コンテスト(9月)に参加し、以下のテーマについて制限時間内に意見を展開する訓練を行った。

- ・「外国人旅行客に紹介したい日本らしさとはどのようなものでしょうか。あなたの考えを述べなさい。」
- ・「あなたが目指している生き方とはどのようなものでしょうか。自由に考えを述べなさい。」
- ・「最近ニュースで関心を持った話題を一つ挙げ、それに関して意見を展開しなさい。」

[指導の手順]

- ①与えられたトピックについて、日本語で理由を説明する練習を行った。このコンテストでは、根拠を示した意見を展開することが求められるため、矛盾のない合理性のある理由になるまで書き直しを行った。
- ②その原稿を英語にする際、1学期に学んだ「つなぎ表現」を用いて順序立てて英文を書き上げるよう指導した。
- ③書き上げた英文をALTがチェックし、書き直すべき箇所について学んだ。

②ディスカッション・ディベート形式での言語活動

- ・教科書本文の内容に関連したトピックを使ってディスカッションを行った。
例：[2年生] ”What is your encourage song?”のトピックで、どの曲が自分を苦しい時に励ましてくれる曲かを理由を含めて、ペアで話し合った。
 - ・[1・2年生] One Minute Talk にディベート形式のトピックを入れて、賛成または反対の立場に立って素早く意見を述べる練習を行った。
例：Summer is the best season in Japan.
- ※ディベートの実践は3学期に行う予定。昨年度は、クラスを4チームに分けて実施した。

(4) 中学校での学習とのスムーズな接続

- ・Bridging (福井県英語研究会が作成) を合格者登校日に配布し、春休みの課題として与えている。生徒は春休み中に学習し、入学後に提出する。
- ・補助教材として「速読英単語入門編」(Z会) を週2回の頻度で学習している。このテキストは中学校の教科書に出てくる単語が含まれており、高校で学習する単語と併せて学習できる長所がある。この速読英単語には必修編と上級編もあり、最初に入門編を学習することで語彙力の基礎固めをすることを目的としている。

(5) 勝山市に関する独自教材・教科書にとどまらない関連教材の活用とその指導

①From Katsuyama Station (ALT作成)

- ・中学校で学習した道案内の表現や時間、お金等の表現を活用して行う活動
- ・ALTの両親が勝山市を訪れることになった。しかし、その日ALTは仕事があるため、自分の代わりに両親にお薦めの場所と勝山駅からの行き方、開店している時間・休館日・入場料、持って行くといよいものについて紹介する活動である。

②修学旅行について、英語での事前学習と事後学習

- ・2年生の修学旅行では、他県の歴史や風土を学ぶことを通して、自分の町を見つめ直す良い機会となっている。英語科でも、修学旅行の内容を使って、事前学習と事後学習を行っている。

(i)Heart of Okinawa (浜島書店)

沖縄の歴史や文化、風土等を紹介した英語の読み物。事前指導として使用。

(ii)Public Performance

修学旅行後に、「後輩へのアドバイス」というテーマでスピーチを行った。来年、修学旅行へ行く後輩へ向けたメッセージとすることで必然性を高めた。

(iii)その他

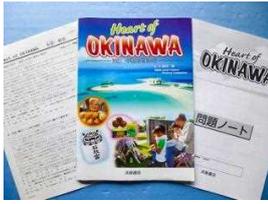
中学校での修学旅行(東京)に加えて、沖縄を訪れたことで比較対象が増え、今後「将来住むなら、勝山市か沖縄か」のようなトピックとして活動する予定。

③福井県英語放送テスト (福井県英語研究会が作成)

- ・授業中に使用

④福-English (福井県教育委員会が作成)

- ・地元の恐竜博物館が題材として収録されており、1年生において、勝山市を紹介する授業の中で活用している。
- ・生徒は恐竜博物館を英語で紹介する際によく用いられる dinosaur / museum / fossil / excavation 等の表現を再確認し、勝山市内の人気スポットをグループに分かれて英語で紹介する活動を行った。



【Heart of Okinawa】



【Public Performanceの様子】



【福-English】

⑤多読指導

- ・昨年度から LL 教室の後ろに、Oxford Reading Tree や Oxford Read and Discover シリーズを置いている。
- ・これらの本とコンピュータ室を活用して多読指導を行った。コンピュータ室では、Oxford Owl のホームページ上で、Oxford の e-book collection を読むことができる。
- ・2年目となる今年度は読書ノートを作成し、メモを基に Book Review や Writing の活動を行った。



(6) 校外学習等での英語活動

- ・台湾潮州高級中學一行が本校を訪問・交流（6月4日）
- ・第54回県高校英作文コンテスト
9月26日（土）午後1時30分～午後4時 140名参加（勝山高校）
- ・「駐大阪・神戸米国総領事の来県に係る交流会」（福井県恐竜博物館）
7月23日（木）、駐大阪・神戸米国総領事が勝山市恐竜博物館を訪れた際、勝山高校1年生（3名）が、平泉寺・農業・左義長など勝山市の特色と魅力について、英語で紹介した。



- ・高文連国際教育研究部会「国際交流体験発表会」
11月20日（金） 2名参加（国際交流会館）
「勝山市青少年ハワイ交流事業に参加して」のテーマで、英語でスピーチ。
- ・福井県高校生海外語学研修事業（予定）
平成28年3月13日（日）～27日（日） 7名参加（米国ワシントン州シアトル）
- ・勝山市ハワイ青少年交流事業（予定）
平成28年3月24日（木）～29日（火） 1名参加人数（米国ハワイ州ホノルル）

(7) ALTの活用

- ・学校の機材を用いてALTの monologue や JTE との dialogue を録音して、学校オリジナルのリスニングテストを考査の度に作成した。オリジナルのリスニングテストを作成することで、授業で生徒が学習したトピックや単語を反映させることができた。
- ・昼食時に、1年から3年の各教室を訪れて一緒に昼食を食べながら、英会話を楽しむ English Lunch を行った。
- ・英語検定では、1次試験合格者に対して面接試験の指導を行った。
- ・ALTの特技（演劇や映画制作の仕事をした経験がある）を活かして、short movie を作成した。本校の和太鼓演奏の部活動（日本文化部）を取材し、部員が英語で様々な種類の太鼓を英語で紹介する動画（5分程度）を作成した。



【英語検定の面接練習】



【ALTが作成した short movie】

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

【4年間を通した取組】

○評価を行う際のデータ収集について

- ・情意面のアンケートを年間2回（4月、2月）実施（小学校は3年～6年の児童対象のアンケート、中高は全校生徒対象のアンケート）

○英語教育実施状況調査を使って分析（教員や生徒の英語使用状況、パフォーマンステストの実施等）

○福井県学力調査（英語：中学2年対象、12月実施）結果を分析（県平均との比較や経年比較）

○外部検定試験を活用して、客観的な英語力を把握・授業改善に活用

【英検 Jr. 学校版】 研究校の小学6年全員 1回/年

【GTEC】

・ 中学2年：	1回/年	・ 中学3年：	2回/年
・ 高校1年：	2回/年	・ 高校2・3年：	1回/年

※英検 Jr. 学校版受験について

①小学担任に対して、英検 Jr. 学校版について共通理解を図る。

本県では、学校において小学生対象の外部検定試験を行うことが初めてである。児童の英語力を客観的に把握し、授業改善に活用することを共通理解する。

②担任が個別面談をして、児童に個表を渡す。

- ・ 技能の伸長の様子
- ・ 今後の学習（中学進学後も含む）に対する取組方法をアドバイス

③受験後に、小学教員と中学英語教員の会議を開催

- ・ 業者の詳細なデータ分析を受けて、小中教員が小学生の英語力と今後の指導について協議

[協議内容]

- ・ スコアが伸びた技能と課題となる技能を洗い出し、各校共通の成果と課題、各校固有の成果と課題を分析し、今までの指導方法との相関関係を分析する。
- ・ 今後の指導の方向性や次年度における授業改善について協議する。
- ・ 課題となる技能について、中学進学後に改善を図ることができるよう、中学校での指導内容や方法の対策を協議する。

④評価委員会で協議について提案

※PDC Aサイクルで検証

※GTEC受験について

①中学教員（新規校）に対して、GTECについて共通理解を図る。

本県では、英語検定以外で外部検定試験を行っていないため、技能の伸長に主眼を置いたGTECについての認識が浅い。6年後の大学入試新テストの動向も含めて、生徒の4技能を伸長するために、客観的な指標を使って生徒の英語力を把握し、授業改善に活用することを共通理解する。

②生徒への啓発

技能の伸長状況を把握する中で、今までの学習状況を振り返るとともに、今後の学習の指針とする。

③英語教員が個別面談をして、生徒に個表を渡す。

- ・ 技能の伸長の様子
- ・ 今後の学習に対する取り組み方法をアドバイス

④受験後に中高英語担当教員連絡会を開催

業者の詳細なデータ分析を受けて、中高教員が中高生の英語力と今後の指導について協議

[協議内容]

- ・ スコアが伸びた技能と課題となる技能を洗い出し、各校共通の成果と課題、各校固有の成果と課題を分析し、今までの指導方法との相関関係を分析する。
- ・ 今後の指導の方向性を協議する。
- ・ 高校1年生において、英語力が2極化することについて、中学3年生から高校1年生にスムーズに接続するための方策を検討する。

⑤評価委員会で協議について提案

※PDC Aサイクルで検証

① 第一年次

【小学校】

- ・外国語活動の評価方法を吟味
- ・英語科の評価方法（テストやパフォーマンステスト等）を作成
- ・情意面に関するアンケート内容を検討・作成
- ・4月に情意面の基礎データを収集・2月に情意面の変容（4月との比較）を分析

【中学校】

- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善
- ・情意面に関するアンケート内容を検討・作成
- ・4月に情意面の基礎データを収集・2月に情意面の変容（4月との比較）を分析
- ・福井県学力調査の結果を分析・中高の英語教員が、外部検定試験（GTEC）の結果を分析

【高校】

- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善
- ・情意面に関するアンケート内容を検討・作成
- ・4月に情意面の基礎データを収集
- ・2月に情意面の変容（4月との比較）を分析
- ・外部検定試験（GTEC）の結果を分析
- ・中高の英語教員が、外部検定試験（GTEC）の結果を分析

② 第二年次

【小学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・4年生から6年生の学習到達目標を作成・活用し、指導と評価の一体化を推進し、中学への学びにスムーズに接続
- ・外国語活動の評価方法（授業中の活動における観察・見取り方・振り返り表の工夫等）を吟味
- ・英語科の評価テスト（テストやパフォーマンステスト等）を5回実施、内容の改善
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較）を分析
- ・小中の教員が、外部検定試験（英検 Jr. 学校版）の結果を分析（経年比較等）

【中学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較）を分析
- ・中高の英語教員が、外部検定試験（GTEC）の結果を分析（経年比較等）
- ・福井県学力調査の結果を分析（県平均との比較や経年比較）
- ・30%以上の3年生が英語検定3級、もしくは、GTEC 320点以上を取得目標
- ・英語教育実施状況調査を使って分析（教員や生徒の英語使用状況、パフォーマンステストの実施等）

【高校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較）を分析
- ・外部検定試験（GTEC）の結果分析（経年比較等）
- ・中高の英語教員が、外部検定試験（GTEC）の結果を分析
- ・30%以上の3年生が英語検定準2級～2級、もしくは、GTEC 485点以上を取得目標
- ・英語教育実施状況調査を使って分析（教員や生徒の英語使用状況、パフォーマンステストの実施等）

③第三年次

【小学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・外国語活動の評価方法（授業中の活動における観察・見取り方・振り返り表の工夫等）を吟味
- ・英語科の評価テスト（テストやパフォーマンステスト等）を5回実施、内容の改善
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、学級集団の3年間の追跡調査）を分析
- ・英語科において、評価テストから導き出された4技能に関するデータを経年比較
- ・小中の教員が、外部検定試験（英検 Jr. 学校版）の結果を分析（経年比較等）

【中学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析
- ・中高の英語教員が、3年間の外部検定試験の分析から、重点的に指導しなければならない技能を洗い出し、指導に活用
- ・40%以上の3年生が英語検定3級、もしくは、GTEC320点以上を取得目標
- ・英語教育実施状況調査を使って分析（教員や生徒の英語使用状況、パフォーマンステストの実施等）

【高校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析
- ・中高の英語教員が、3年間の外部検定試験の分析から、重点的に指導しなければならない技能を洗い出し、指導に活用
- ・40%以上の3年生が英語検定準2級～2級、もしくは、GTEC485点以上を取得目標
- ・英語教育実施状況調査を使って分析（教員や生徒の英語使用状況、パフォーマンステストの実施等）

④第四年次

【小学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・外国語活動の評価方法（授業中の活動における観察・見取り方・振り返り表の工夫等）を吟味
- ・英語科の評価テスト（テストやパフォーマンステスト等）を5回実施、内容の改善
- ・2月に4年間の情意面の変容（経年比較、学級集団の4年間の追跡調査）を分析・英語科において、4年間の評価テストから導き出された4技能に関するデータを比較
- ・小中の教員が、外部検定試験（英検 Jr. 学校版）の結果を分析（経年比較等）

【中学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善
- ・2月に4年間の情意面の変容（経年比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析
- ・2月に4年間の学力面の変容（経年比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析
- ・50%以上の3年生が英語検定3級、もしくは、GTEC320点以上を取得目標
- ・英語教育実施状況調査を使って分析（教員や生徒の英語使用状況、パフォーマンステストの実施等）

【高校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証・修正
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善
- ・2月に4年間の情意面の変容（経年比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析
- ・2月に4年間の学力面の変容（経年比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析
- ・50%以上の3年生が英語検定準2級～2級、もしくは、GTEC485点以上を取得目標
- ・英語教育実施状況調査を使って分析（教員や生徒の英語使用状況、パフォーマンステストの実施等）

○平成27年度の進捗状況・課題

1 小学校での進捗状況・課題

(1) 外国語活動・英語科の評価について

①外国語活動における評価

- ・年間指導計画の「評価計画」に従って評価する。1時間の時間の中で、評価の中心となる観点を決め、その評価規準について児童の観察や振り返りカードを基に記録する。

(例) Lesson 5 What do you like? *Hi, friends! 1*

月	時数	単元名 単元の目標	単元の評価規準	本時の目標	学習活動	単元達成			評価
						コ	慣	気	
	1	あいさつしよう ・積極的に挨拶をしようとする。	【コ】積極的に挨拶をしている。 【慣】英語での挨拶や	英語での挨拶や、自分の名前の方に慣れ親しむ。	・表紙を見て、どのような場面かを想像して発表する。 【Let's Listen 1】音声教材を聞いて、登場人	●			振り返りカード
	28	Lesson 5 What do you like? 色 形 ④ ・好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。	【コ】好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしている。 【慣】好きなものは何かを尋ねたり答えている。	・日本語と英語の音の違いに気付く。色や形の言い方を知る。	・カラータッチゲームをする。(復習) ・形の言葉を使って、ミッシングゲームをする。(全体→グループで) ・【Let's Listen1,2】Tシャツを当てる。 ・色・形カードを使って、ビンゴゲームをする	●			振り返りカード
	29	・色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・日本語と英語の音の違いに気付く。	【慣】好きなものは何かを尋ねたり答えている。 【気】日本語と英語の音の違いに気付いている。	・色や形の言い方に慣れ親しむ。好きなものは何かを尋ねる表現を知る。	・ポインティングゲームをする。 ・【Let's Chant】What color do you like? ・“What color do you like?”を使って、ラッキーカードゲームをする。 ・色・形ランキングゲームをする。	●			振り返りカード
				・色や形の言い方や、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。	・【Let's Chant】What color do you like? ・【Let's Listen3】で、What shape do you like? How many ~?の表現を知る。 ・インタビューしながら、友達とTシャツ作りをする。	●			振り返りカード
				好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。	・【Let's Chant】What color do you like? ・好きなお宝ビンゴをする。 ・自分の好きな物をみんなに紹介する。	●	○	○	振り返りカード

外国語活動 振り返りカード

年 名前

<Lesson5> What do you like? 友だちにインタビューしよう

○好きな物について、友だちに遠くでインタビューしたり紹介したりしよう。
○色や形などの言い方を知って、好きなものをたずねたり答えたりしよう。
○色や形などの言い方で、日本語と英語の同じところや違うところを見つけよう。

どうでしたか?	気付いたこと・考えたこと
1 「くまさん、くまさん、何見てるの?」の絵本を聞いて、いっしょに動物や色の名前を書いたり、呼びかけたりしましたか。	はい いいえ
2 いろいろな色や形の名前が、英語で書きましたか。	はい いいえ
3 色や形の言い方で、日本語と英語をくらべてわかったことはありますか。	はい いいえ
4 元氣よく歌を歌ったり、チャンスを書いたりしましたか。 - 「カラーソング」	はい いいえ
5 友だちに好きなものをインタビューしたり答えたりするのは楽しかったですか。 - 色 - 動物 - 食べ物 - 自分の聞きたいこと	はい いいえ

【できたかな?】

	はい	いいえ
1 インタビューするとき、だれとでも気持ちよい話し方ができました。	😊😊😊	😞😞😞
2 ポインティングゲームで、先生の言う色や形を聞いて、その色と形のマークを指さすことができました。	😊😊😊	😞😞😞
3 グループのみんなと、カルタ(先生の言う動物や食べ物)のカードを取るゲーム)を楽しくすることができました。	😊😊😊	😞😞😞
4 友だちに “What ○○ do you like?”と好きなものをたずねたり、 “I like ~.”と答えたりすることができました。	😊😊😊	😞😞😞

2	いろいろな色や形の名前が、英語で書きましたか。	はい いいえ	★色や形の言い方でわかったこと
3	色や形の言い方で、日本語と英語をくらべてわかったことはありますか。	はい いいえ	

- ・授業の最後に「振り返りの時間」を取り、授業の中で気付いたことや、お互いのよかった所を発表して共有する。
- ・第1時の重点項目は「言語や文化に関する気付き」となっている。振り返りカードの中の児童の記述と、授業中のつぶやきや発言と合わせて、この観点を○△で評価したり、特記する必要があるメモしたりする。
- ・単元の中で、3つの観点をバランスよく評価する。

②英語科の授業中の活動における評価について

- ・基本的には外国語活動と同様、年間指導計画の「評価規準」と重点評価項目に従って評価する。これには振り返りカードによる評価も含まれる。また、インタビューテストや、筆記による聞き取りテストなどの評価も行う。

【年間指導計画】

月	時数	単元名 単元の目標	単元の評価規準	本時の目標	学習活動	構成				評価方法		
						成	コ	表	理			
4月	1	Lesson 1 Do you have "a"? 言語 挨拶 ④ ・積極的にある物を持っているかどうかを尋ねたり答えたりしている。	【コ】 積極的にある物を持っているかどうかを尋ねたり答えたりしている。	◇世界には様々な文字があることや 31~100 までの数の言い方を知る。	・学習のめあてを知る。 ・【Let's Play】 動物の数あてゲーム P.2,3 ・【Let's Chant1】 How many penguins? ・【Let's Listen】 どの動物を表す文字だろう	●				◎	振り返りカード	
	2	・31~100の数の言い方やアルファベットの小文字と読みとを一致させている。 ・世界には様々な文字があることを知る。	【表】 31~100 の数の言い方やアルファベットの小文字, あるかどうかを尋ねたり言ったりしている。	◇アルファベットの小文字とその読み方を一致させ, 31~100の数を言ったり聞いたりする。	・【Let's Chant】 How many penguins? ・ミッシングゲームをする。 ・【Let's Chant】 オプション②~④ "a,b,c" ・ラッキーカードゲーム What do you want? ・伝言ゲーム1 Do you have "a"?	●				○	行動観察	
	3	・31~100の数字, アルファベットの文字と読みとを一致させている。 ・世界には様々な文字があることを知る。	【理】 31~100の数の表示と読みを見たり聞いたりして何を表しているかわかる。 【気】 世界には様々な文字があることに気付いている。	◇アルファベットの小文字とその読み方を一致させ, 自分のほしい文字を持っているかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	・【Let's Chant】 オプション②~④ "a,b,c" ・伝言ゲーム2 ・Make Pairs ゲームをする。 ・【Activity 1】 アルファベット見つけ p.4.5 見たことがあるアルファベット表示を書き写す。 ・選んだアルファベット表示をあてる。 "Do you have ~?"	●			◎			Handwritten 評価
	4			◇積極的にアルファベットの小文字を読み, 自分のほしい文字を持っているかどうかを尋ねたり答えたりしようとする。	・【Let's Chant】 "How many penguins?" ・【Let's Chant】 オプション②~④ "a,b,c" ・Go Fish ゲームをする。 Do you have "a"? ...Yes, I do./No, I don't. ・【Activity 2】 アルファベットクイズ大会	●			◎	○		クイズ発表
表 現			Do you have "a"? Yes, I do. / No, I don't.									
語 彙			アルファベット a~z, do, you, I, have, yes, no, don't, one ~ thirty, forty, fifty, sixty, seventy, eighty, ninety, hundred.									

【評価規準に基づく評価基準表】

- ・5・6年生は英語科として評定するため、勝山市の教員間で共通理解ができるよう、具体的な評価基準を作成した。(まだ完成していない。) その中で、テストによる評価のポイントが分かるようにした。ただし、指導計画や授業内容は、担任の先生の思いによって異なるので、それぞれの担任がこれに合わせて評価基準を設定することになる。

6 th Grade Students					
Lesson1 Do you have "a"?					
評価	観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化に関する気づき
	評価規準	○積極的にある物を持っているかどうかを尋ねたり答えたりしている。	○31~100 の数の言い方やアルファベットの小文字, あるかどうかを尋ねたり言ったりしている。	○31~100の数の表示と読みを見たり聞いたりして何を表しているかわかる。	○世界には様々な文字があることに気付いている。
	評価基準(方法)	・「アルファベットクイズ大会」で進んで、質問をして答えの語を当てようとしたり、その質問に答えようとしている。 (行動観察)	・「Make Pairs ゲーム」でアルファベットの小文字を持っているか尋ねたり、答えたりすることができる。 (行動観察, インタビューテスト)	・テスト (聞き取り・行動)	・p3【Let's Listen】で、世界には様々な文字があることに気づくことができる。 (31~100の数字の言い方のルールに気づくことができる。 (振り返りカード)
	特に積極的に質問したり、答えたりしている児童に◎(アイコンタクト, 笑顔などを含む)			具体的に言葉で違いや共通点を書いている◎	

【振り返りカードによる評価】

- ・授業の最後に「振り返りの時間」を取り、授業の中で気付いたことやお互いのよかった所を発表して共有する。
- ・単元の最後に、自分ができるようになったかを振り返って自己評価をする。
- ・ただし、児童の自己評価は担任が参考にするためのもので、評定を決める際は、インタビューテストやペーパーテスト、発表などを使って評価する。

英語学習 振り返りカード _____年 組 _____名前

Lesson3 I can swim. ☆できることを紹介しよう☆

○積極的に、友だちに「できること」をたずねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしよう。(積極的なコミュニケーション)
 ○「できる」「できない」という表現を使って自己紹介をしよう。(話す・書く)
 ○インタビューや自己紹介の発表を聞いて、友だちのことをもっと知ろう。(聞く)
 ○英語と日本語の違いや、人それぞれの違いを知ろう。(気づき)

	学習のめあて	振り返り	
1	いろいろな動作を表す言葉や、「～できる・できない」の言い方を知ろう。	☆日本語と英語の言い方の違いに気づきましたか。.....	(○) (△) (×)
2	「できること」「できないこと」を言ってみよう。	(○) (△) (×)
3	先生や友だちに「できること」や「できないこと」を聞いてインタビューしよう。	☆友だちの新しい一面を見つけたことができましたか。	(○) (△) (×)
4	自分ができること・できないことを考え自己紹介カードを作る。	(○) (△) (×)
5	自分ができること・できないことを、友だちと積極的に伝え合おう。	(○) (△) (×)

単元を振り返って

◇できたかな？

①「～できる」「～できない」ことを言うことができました。-----はい いいえ
 ②「～できる」「～できない」ことをたずねたり答えたりすることができました。--はい いいえ
 ③「できること」に今までに習った表現を足して、自己紹介ができました。-----はい いいえ
 ④友だちの発表を聞いて質問したり、感想を言ったりできました。-----はい いいえ

英語学習 振り返りカード _____年 組 _____名前

Lesson6 What time do you get up? ☆一日の生活を紹介しよう☆

○自分の1日の生活について、友だちに伝わるように工夫して紹介しよう。
 ○生活の中の動作を表す表現や、その時刻を表したりたずねたりする表現に慣れ親しもう。
 ○自分の日本での1日と外国の時刻をつなげて、時刻や生活の違いを知ろう。

	① 月 日 ()	② 月 日 ()	③ 月 日 ()
1	先生や友だちと進んでやりとりをしましたか。(○) (△) (×)	先生や友だちと進んでやりとりをしましたか。(○) (△) (×)	先生や友だちと進んでやりとりをしましたか。(○) (△) (×)
2	ゲームをしながら、数字や時刻を聞いたり言ったりしましたか。(○) (△) (×)	生活の中の動作や時刻を言ったり、聞いたりしましたか。(○) (△) (×)	生活を表す表現や時刻を、聞いたり言ったりしましたか。(○) (△) (×)
3	動作や時刻の言い方について気づいたことはありますか。(○) (△) (×)	生活の中の動作や、それをたずねる表現について気づいたことはありますか。(○) (△) (×)	世界各地の時刻と日本の時刻を比べて気づいたことはありますか。(○) (△) (×)
自己評価			
	④ 月 日 ()	⑤ 月 日 ()	
1	友だちに積極的にインタビューしようと思いましたか。(○) (△) (×)	自分の1日の生活を、相手に伝わるように工夫して紹介しようと思いましたか。(○) (△) (×)	
2	友だちに生活の時刻をたずねたり答えたりして、お互いに聞き合うことができましたか。(○) (△) (×)	日課表に自分の1日の生活を書いたり、それを言ったりすることができましたか。(○) (△) (×)	
3	自分の生活と、友だちの生活を比べて気づいたことはありますか。(○) (△) (×)	友だちとお気に入りの日課を紹介し合ったり、新しくわかったり気づいたことはありますか。(○) (△) (×)	
自己評価			
振り返りシート			

③成果と課題

- ・振り返りカードに単元全体の活動や目当てを明記することで、児童が見通しを持って授業に取り組むことができた。
- ・活動の足跡を残すことで、単元の最後に児童が全体を振り返ることができる。
- ・実際の授業では、時間内にカードを書いて発表させることは難しい。特に、「聞く・話す」活動に加えて、「読む・書く」を加えた活動を展開する場合は、もう少し余裕を持った時間配分で学習を進める必要がある。
- ・教科としての評価・評定についての共通理解を進めるため、実際の授業の中で担任と専科教員が共同で評価をして、その結果を見て話し合いをするなどの研修が必要である。

(2) 5・6年英語科におけるインタビューテスト等の評価、評価規準・基準

①英語科としての評価

- ・1学期に2回の頻度で、インタビューテストと筆記でのテストを行った。評定のためのテストではなく、児童が「こんなことができるようになった」「もっとがんばりたい」と、自信を持たせたり意欲を高めたりすることを目的としている。
- ・今年度は、児童同士で評価したり、教師との1対1のインタビューだけでなく、ペアでの活動を取り入れたりして実施した。また、内容も1時間内にできるようポイントを絞った。

【1学期 前半の評価テストの例】

1学期 カだめし Part1 心り返ってみよう for 5th grade students

年 組 名前

1 アルファベット26文字が言えますか。(表現)
友だち2人と先生に聞いてもらいましょう。…できたらサインをもらいましょう。

2 アルファベット26文字を読むことができますか。(理解)
友だち2人と先生にチェックしてもらいましょう。

3 先生の言うアルファベットを聞いて、どの文字がわかりますか。カードをならべてみましょう。(理解)

1文字目	2文字目	3文字目	4文字目	5文字目
<input type="text"/>				

合っていたら○を付けましょう。

4 アルファベット26文字を書くことができますか。(表現)

5 友だちと2人で「ペアを作ろう」ゲームをしましょう。
①欲しい物をたずねることができますか。
②欲しい物を言うことができますか。(表現)

A: What do you want?	B: I want "A" card, please.
A: Here you are.	B: Thank you.

※児童の相互評価+教師の評価。友達に聞いてもらうことで練習になる。その後に先生の所へ行ってテストを受ける。

※児童の相互評価+教師の評価。最初は順番通りに読んでいくので、1とかわらないが、教師の所では、指し示された文字を読む課題が出る。

※この問題はテストではなく、現在自分がいくつのアルファベットを正確に書けるかをフィードバックするためのものである。事前にその主旨を説明し、「書けた」「書けなかった」の評価でなく、「全部書けたね。すごい。」「あと4つだね。がんばってるね。」などのようなコメントを返す。また、教師にとっては、今後の指導の焦点を絞りやすくなる。

※授業で行った活動をペアで行う様子を観察しながら評価する。

インタビューテストの方法 (先生が入って3人で行ってもよい。)

※テストの前に、HRT とがデモンストレーションをして方法を示す。

一人に5枚ずつカードを配り、英語で質問しながらペアを作る。

【関心・意欲・態度】相手の方を見て、笑顔で話している。→ [◎ ○ △]

【表現の能力】

- ・相手に何がほしいかたずねることができた。
- ・自分のほしいカードが何かを伝えることができた。 →両方できて [◎ ○ △]
- ・英語の流暢さ (英語らしい発音で話している) → [◎]

※児童が言葉に詰まった際、ヒントを出してもよい。ヒントによって、児童が答えることができたなら評価は○になる。

【2学期後半の評価テストの例】

- ・評価テストとインタビューテストと合わせて行った。

インタビューテスト *最初にHRTとJTEがデモンストレーションをする。

1. あいさつ *関心・意欲・態度を見ます。
 ①T: Hello, how are you? S: I'm -----, Thank you.
 ②JTE/ HRT からの簡単な質問
 (ex.) Do you like sports? What sport do you like? / What subject do you like?

2. できること (JTEの質問に答える。)
 JTE: Can you -----? S: Yes, I can. I can ----- / No, I can't. I can't -----.
 先生の「できること」「できないこと」を予想して質問する。
 S: Can you -----? JTE: Yes, I can. / No, I can't.

評価のポイント	◎ ○ △	の三段階でチェックします。
①関心意欲態度		アイコンタクト・スマイル・声の大きさ・質問に答えようとしている。
②表現		質問に答えている。 Yes, I can. ○ Yes, I can. I can ----- ◎ 先生に質問している Can you~? 英語らしさ

- インタビューテストは、他の児童がいるところで行った。
- 最初の質問では、JTEが児童に”Yes, I can.” “No, I can't.” の両方の答えを言わせようと質問した。児童によっては、何を聞いても”No, I can't.” と答えるので、他の児童が教える場面もあった。
- JTEに質問する場面では、一人の児童が、みんなが聞かないオリジナルの質問“Can you speak Chinese?”をしたことをきっかけに、他の児童も次々に自分で考えた質問をしてきて、思わぬ効果に驚かされた。
- 今年度は、以下のようなインタビューテストを行った。
 - ・ペアの児童の活動の様子を観察
 - ・別室での児童と教師の1対1
 - ・オープンスペースでの1対1のインタビュー

②課題

- ・評価テストを個々の先生が作るのには時間がかかるので、今までに作成したテストをストックして、共有していくようにする必要がある。
- ・評価テストは授業に結びついてるものなので、どのような観点でどのような問題を作るのかといった「作問 (テスト作り)」に関する共通理解が必要である。
- ・限られた時間で、どのようにしたら効率よくインタビューテストができるのか、内容や形式についてさらに研究していく必要がある。

2学期 英語学習の力だめし 5年 名前 _____

♪2学期の英語の学習でどんなことを勉強したか、どんなことができるようになったか、力だめしをしてみましょう。

1. 二人の会話を聞いて、できることには○を、できないことには△をつけましょう。
 (1) うさ美 (2) ブー助



2. アルファベットの小さい文字 (理解) *大文字に合う小文字のカードを置きましよう
 かった時間は □1分以内でできた □2分以内でできた
 □3分以内でできた □時間はかかったが最後までできた

3. 大文字を参考にして、アルファベットの小文字をAからZまで順番に書きましよう

A B C D E F G H I J

 N O P Q R S T U V W X Y Z

*高さに気をつけてね。 1階建て・2階建て・地下室つき

これは、評価ではなく3学期の指導に役立てるための問題です。

／26文字

2 中学校での進捗状況・課題

(1) 学習到達目標や単元の評価規準を反映したパフォーマンステスト

- ・従来の定期テストだけに頼った評価ではなく、生徒の英語力を多様な形で評価し、評定に反映させた。
- ・様々な場面設定と多角的な評価を実施できるよう、パフォーマンステストの形式を開発することに取り組んだ。

例) シチュエーションテスト [3年生]

Speaking Plue3 のパフォーマンステストとして、自作したえちぜん鉄道とJRを組み合わせた路線図を利用し、ALTに道案内するテストを作成した。

例) [3年生] 3学期は、記事を読んで自分の意見や考えを伝えるパフォーマンステストも検討している。

①パフォーマンステストの評価規準の例

意欲・態度	言語表現	内容	非言語表現	ALTポイント
・声の大きさ ・目線 (ジェスチャー) (笑顔)	・文法 ・用法 ・発音、流暢さ	・ストーリー ・論理性 ・印象	・ジェスチャー ・笑顔 ・パフォーマンス ・作品	全体的な印象等

- ・A～Cで評価
- ・パフォーマンステストの形により選択
- ・具体的な評価規準を生徒に示したため、パフォーマンステストに向けて意欲的に取り組むようになった。

②校内テストとパフォーマンステストの評価割合 (A校の例)

[3年：2学期の評価項目]

意欲・関心		表現		理解		言語・文化	
授業発表	50%	中間テスト	50%	中間テスト	70%	中間テスト	80%
		期末テスト		期末テスト		期末テスト	
スピーチ/シチュエーション	10%	スピーチ/シチュエーション	10%	リスニング(放送テスト)	20%	単語(計)	20%
ライティング	10%	インタビュー	10%	音読	10%		
音読	10%	音読	10%				
インタビュー	10%	インタビュー	10%				
スキット	10%	スキット	10%				

[3年：2学期の評価における「授業・定期テスト」と「パフォーマンステスト」の割合]

	授業・定期テストなど：パフォーマンステスト	
意欲・関心	1	1
表現	1	1
理解	7	3
言語・文化		

○校内テストとパフォーマンステストの評価割合 (B校の例)

[評価項目]

意欲・関心		表現		理解		言語・文化	
授業発表	50%	中間テスト	80%	中間テスト	80%	中間テスト	80%
		期末テスト		期末テスト		期末テスト	
スピーチ	10%	スピーチ	10%	リスニング	20%	単語(計)	20%
ライティング	10%	スキット	10%				
音読	10%						
インタビュー	10%						
スキット	10%						

〔「授業・定期テスト」と「パフォーマンステスト」の割合〕

	授業・定期テストなど：パフォーマンステスト	
意欲・関心	1	1
表現	1	1
理解	8	2
言語・文化		

(2) 校内テストの改善

- ・学習到達目標を意識した授業を行うようになり、校内テストにおいても授業で取り上げた活動や達成すべき目標を意識して校内テストを作成するようになった。指導と評価が一体的に行われ始めている。

例) 書くこと・読むこと

学習到達目標にあわせて、長文の語数を設定した。また、概要をつかんで考えや感想を述べる力を評価するため、英文1文で提示していた作文のテーマを会話文形式で提示する方法に変更した。

例) 書くこと

- ・言語形式の正しさだけでなく、内容やまとまりについても生徒に意識させ、学年の目標に合わせて規準を設けた。また、話す活動やパフォーマンステストの題材を使った表現問題も設問として取り入れた。

- ・[3年] 今までは5文以上の英文を書いた場合には、得点の高い上位の5文を選んで採点していた。この場合、5文程度、30語程度で書き終わってしまう生徒がほとんどだったため、多くの英作文を書いた生徒にボーナス点を与えることにした。例えば、7文には1点、9文には2点を与え、生徒の作文量に伸張が見られた。

例) 帯活動を校内テストに活用

3 高校での進捗状況・課題

(1) 学習到達目標や単元の評価規準を反映したパフォーマンステスト

従来の定期テストだけに頼った評価ではなく、生徒の英語力を多様な形で評価し、評定に反映させた。

〔コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの評価項目〕

関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
校内模試	50%	定期テスト	40%	定期テスト	40%	定期テスト	40%
宿題プリント	20%	音読テスト	30%	音読テスト	30%	音読テスト	20%
ワークシート	20%	ワークシート	30%	ワークシート	30%	単語テスト	20%
ノートチェック	10%					ノートチェック	20%

〔コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける評価の割合〕

定期考査：パフォーマンステスト	7 : 3 (コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ)
	8 : 2 (コミュニケーション英語Ⅲ)

〔英語表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの評価項目〕

関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
ワークシート	40%	定期テスト	40%			定期テスト	50%
宿題プリント	20%	宿題プリント	30%			宿題プリント	20%
ノートチェック	20%	ワークシート	30%			ワークシート	20%
PPP (英語表現Ⅰ) パブリックパフォーマンス (英語表現Ⅱ・Ⅲ)	20%					ノートチェック	10%

〔英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける評価の割合〕

定期考査：パフォーマンステスト	7 : 3 (英語表現Ⅰ・Ⅱ)
	8 : 2 (英語表現Ⅲ)

(2) 校内テストの改善

- ・日常の授業が英語で行うことを基本としているので、校内テストも英語で答える問題を多く出題するように努めている。ただし、英語で説明するのが難しいと予想されるようなやや複雑な答えになる問題については日本語を使って解答させるようにした。
- ・単語の意味を答えさせる問題に関しては、文脈を与えて文脈に応じた意味を答えるようにし、単に機械的に暗記した意味を答えるものにならないようにした。
- ・教科書内容についても、授業で学習した内容を確認するのではなく、教科書で得た情報を用いて意見や考えを述べる問題を多く出題した。

例1 勝山高校のルールを2つ英語で説明しなさい。ただし、それぞれの英文には異なる助動詞を用いること。

例2 下線部(4)について、ALTのSimonは下記のように述べている。()内に入る内容を推測し、それを英語の文章で答えよ。

I say my given name first when I introduce myself.

It is because ().

例3 次の意見に対し、賛成・反対いずれかの立場でああなたの考えを60語～70語で書きなさい。

Our library should have more comic books.

- ・教科書の内容に関連した内容で、生徒にとって所見英文を10～20%程度出題した。

例1 次のアフリカの携帯電話の普及に関する英文を読んで、あとの問いに答えよ。

→Lesson2 高橋尚子がケニアに靴を贈る運動に関連した内容の英文

例2 以下の文章はファッションデザイナーである三宅一生氏がニューヨーク・タイムズ紙に寄稿した“A Flash of Memory”というエッセイを一部改変したものである。この文章を読み、続く問いに答えなさい。

→Lesson7 広島原爆と三宅一生の関係を扱った内容に関連した英文

4 児童・生徒への効果

(1) 学習に対する児童・生徒の関心・意欲

①児童・生徒の英語学習に対する肯定感が高く、授業内容の理解度も高い。

[成果]

- ・小中高の研究校において、意見や考えを伝え合うメッセージ重視の指導を行い、児童・生徒が英語の学習を肯定的にとらえる生徒が多い。
- ・「自分の考えや気持ちを話したり書いたりして表現することが好きである」の項目に関して、小中学校では6割以上の児童・生徒が肯定的にとらえている。また、今年度(5月)の高校生における調査では、昨年度の調査よりも約6ポイント向上しており、高校での授業改善の成果が表れてきている。
- ・全国調査と比較して、児童・生徒の関心・意欲が高い。

【研究校における児童・生徒対象のアンケート結果より】

※小学生は3～6年の児童を対象に実施

好きだ・どちらかといえば好きだと回答した児童・生徒の割合	小学生	中学生	高校生		
英語の学習は好きですか。	H26 勝山市	6月	86.5%	77.0%	59.1%
		2月	82.9%	77.7%	60.5%
	H26 全国		70.9%	60.0%	41.6%
	H27 勝山市	5月	86.0%	71.7%	54.8%
英語(外国語活動)の授業はどの程度分かりますか。	H26 勝山市	6月	89.6%	77.5%	77.3%
		2月	88.7%	76.4%	75.4%
	H26 全国		65.2%	53.0%	
	H27 勝山市	5月	82.9%	78.6%	72.2%
英語を使って、自分の考えや気持ちを話したり書いたりして表現することは好きですか。	H26 勝山市	6月	74.0%	59.8%	40.5%
		2月	66.6%	60.2%	41.8%
	H27 勝山市	5月	66.0%	60.0%	47.6%

(平成26年度小学校外国語活動実施状況調査より ※中学生の結果は、中1と中2の平均を算出)
(平成26・27年度英語力調査結果より)

②教員や生徒の英語使用量の増加

〔成果〕

- ・教師主導の講義型授業から、ペア・グループワークを取り入れた活動型授業へ転換
- ・コミュニケーションの必然性を高める場面設定の工夫、メッセージを発信する相手を明確にした活動、教科書の内容や与えられたトピックに関して生徒の意見や考えを問う授業を実施

〔課題〕

- ・中学校の研究校が増えたことにより、昨年度と比較して、教員や生徒の英語使用量が減少した。各校における教科部会で共通理解を行い、経験豊かな教員による指導体制を構築する必要がある。
- ・ペア・グループワークによる活動が増加している一方、インタラクションによる言語活動が少ない。

【中学の研究校：授業における、英語担当教員の英語の使用状況】（1校あたりの3学年の平均）
（平成25・26・27年度英語教育実施状況調査結果より）

		H25(3校)	H26(1校)	H27(3校)
発話をおおむね英語で行っている (75%以上)	勝山市	4.7%	0%	23.5%
	全国	6.5%	7.7%	
発話の半分以上を英語で行っている (50%～75%)	勝山市	42.9%	100%	53.0%
	全国	36.4%	41.2%	
発話の半分未満を英語で行っている (50%未満)	勝山市	52.4%		23.5%
	全国	57.1%	51.1%	

【高校の研究校：授業における、英語担当教員の英語の使用状況（コミュニケーション英語Ⅰ）】
（平成25・26・27年度英語教育実施状況調査結果より）

		H25	H26	H27
発話をおおむね英語で行っている (75%以上)	勝山市	0%	75%	
	全国	15.1%	13.7%	
発話の半分以上を英語で行っている (50%～75%)	勝山市	67%	0%	
	全国	38.0%	34.4%	
発話の半分未満を英語で行っている (50%未満)	勝山市	33%	25%	
	全国	46.9%	51.9%	

【高校の研究校：授業における、英語担当教員の英語の使用状況（コミュニケーション英語Ⅱ）】
（平成25・26・27年度英語教育実施状況調査結果より）

		H26	H27
発話をおおむね英語で行っている (75%以上)	勝山市	25%	
	全国	12.2%	
発話の半分以上を英語で行っている (50%～75%)	勝山市	50%	
	全国	34.5%	
発話の半分未満を英語で行っている (50%未満)	勝山市	25%	
	全国	53.2%	

【中学の研究校：授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合】
（1校あたりの3学年の平均）（平成25・26・27年度英語教育実施状況調査結果より）

		H25(3校)	H26(1校)	H27(3校)
授業中、おおむね言語活動を行っている (75%以上)	勝山市	0%	0%	29.4%
	全国	11.0%	11.9%	
半分以上の時間、言語活動を行っている (50%～75%)	勝山市	66.7%	100%	35.3%
	全国	36.5%	39.7%	
半分未満の時間、言語活動を行っている (25%～50%)	勝山市	33.3%		35.3%
	全国	44.8%	41.9%	
あまり言語活動を行っていない (25%未満)	勝山市			
	全国	7.7%	6.4%	

【高校の研究校：授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合（コミュニケーション英語Ⅰ）】
（平成 25・26・27 年度英語教育実施状況調査結果より）

		H25	H26	H27
授業中、おおむね言語活動を行っている (75%以上)	勝山市	0%	50%	50%
	全 国	11.2%	10.7%	
半分以上の時間、言語活動を行っている (50%～75%)	勝山市	67%	25%	50%
	全 国	30.2%	31.9%	
半分未満の時間、言語活動を行っている (25%～50%)	勝山市	33%	25%	
	全 国	39.9%	39.6%	
あまり言語活動を行っていない (25%未満)	勝山市			
	全 国	18.7%	17.8%	

【高校の研究校：授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合（コミュニケーション英語Ⅱ）】
（平成 25・26・27 年度英語教育実施状況調査結果より）

		H26	H27
授業中、おおむね言語活動を行っている (75%以上)	勝山市	0%	50%
	全 国	9.8%	
半分以上の時間、言語活動を行っている (50%～75%)	勝山市	50%	50%
	全 国	31.4%	
半分未満の時間、言語活動を行っている (25%～50%)	勝山市	50%	
	全 国	40.6%	
あまり言語活動を行っていない (25%未満)	勝山市		
	全 国	18.2%	

③多様なパフォーマンス評価による、生徒の英語力を多面的に評価

〔成果〕

- ・中高ともパフォーマンステストを実施し、生徒の英語力を多面的に評価したことにより、パフォーマンステストの実施回数が増加した。
- ・学習到達目標とそれに対応した年間指導計画により、指導と評価の一体化が推進されている。

〔課題〕

- ・従来の定期テストだけに頼った評価でなく、パフォーマンステスト等も活用して評定に反映させようと努めているが、定期テスト主体の評価である研究校もある。

【中学の研究校におけるパフォーマンステストの状況（1校あたりの3学年の平均）】
（平成 25・26・27 年度英語教育実施状況調査結果より）

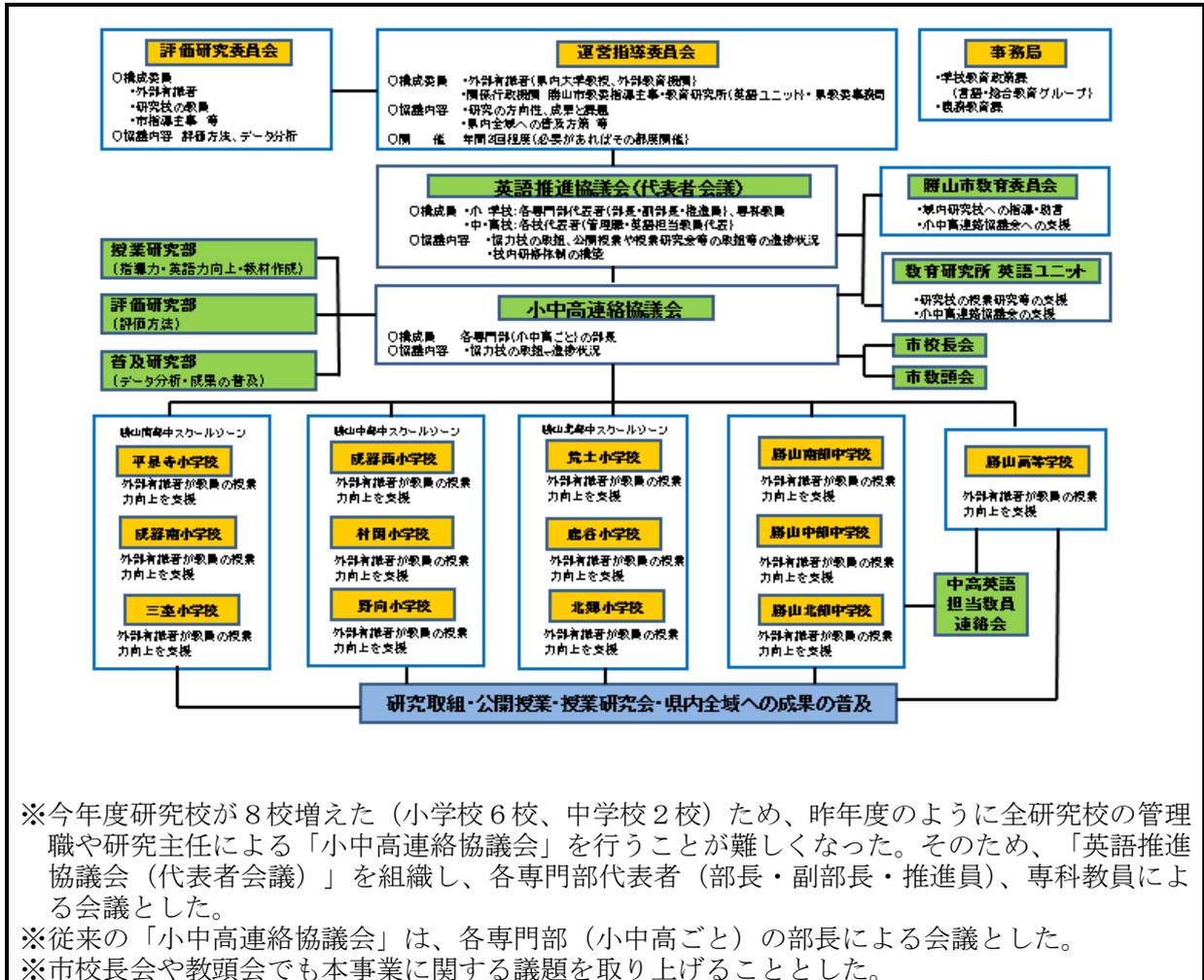
		H25(3校)	H26(1校)	H27(3校)
スピーキング テスト	スピーチ	2.3回	2回	1.9回
	インタビュー(面接)	1.6回	3.3回	2.6回
	プレゼンテーション	0.7回	1回	0.9回
	ディスカッション	0.1回		0.1回
	ディベート	0.1回		0.1回
スピーキングテスト合計	勝山市	4.8回	6.3回	5.6回
	全 国	2.9回	2.9回	
ライティングテスト (エッセイ等)	勝山市	6.7回	3回	5.3回
	全 国	2.2回	2.1回	

【高校の研究校におけるパフォーマンステストの状況（コミュニケーション英語・英語表現）】
（平成 25・26・27 年度英語教育実施状況調査結果より）

		H25		H26		H27	
		コ I	英 I	コ I・II	英 I・II	コ I・II	英 I・II
スピーキングテスト	スピーチ	1 回		3.5 回		4.5 回	
	インタビュー(面接)	1 回					0.5 回
	プレゼンテーション		3 回		4 回		3.5 回
	ディスカッション						
	ディベート				0.5 回		
スピーキングテスト合計	勝山市	2 回	3 回	3.5 回	4.5 回	4.5 回	4 回
	全国	2.3 回	1.8 回	2 回	1.6 回		
ライティングテスト(エッセイ等)	勝山市			5 回	5.5 回	5 回	5 回
	全国	0.8 回	2 回	1.8 回	1.8 回		

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

活動計画

①運営指導委員会

- ・ 3回の会議を開催予定、学期ごとに成果と課題を明確にして、次学期の取組に活かす。
- ・ 研究開発に関する項目について、指導・助言を行う。
 - ・ 教員の授業力や児童・生徒の英語力
 - ・ 小学英語科の補助教材（文部科学省作成）の効果的な活用方法
 - ・ 小学5・6年英語科における「読むこと」「書くこと」に関する指導内容
 - ・ 指導と評価の一体化
 - ・ 県内全域への成果の普及の方策
- ・ ベネッセコーポレーション（GTEC事業推進課）から有識者を招聘し、全国の先進的な取組（小学校英語科、中高のCAN-DOリスト活用事例、外部検定試験を活用した指導と評価の一体化等）に関する情報提案を受ける。

②評価委員会

- ・ 出席者 外部有識者、管理職、研究校の教員、勝山市教育委員会指導主事
教育研究所英語ユニット、県教委担当者
- ・ 4回の会議を開催予定
- ・ 協議内容
 - ・ 児童・生徒の英語力を評価する内容や方法に妥当性があるかについて分析
 - ・ 情意面に関するアンケートとGTECの結果分析を受けて、指導と評価への活かし方

③小中高連絡協議会

- ・ 出席者 各校の管理職、研究主任、英語加配教員、日本人補助講師（勝山市雇用）
勝山市指導主事、教育研究所英語ユニット
- ・ 原則として毎月開催
- ・ 協議内容
 - ・ 全校体制による校内研修体制の構築・支援
 - ・ 協力校の取組の共通理解、進捗状況把握
 - ・ 教科化に向けた成果と課題
 - ・ 公開授業や授業研究会
 - ・ 情意面アンケート実施
 - ・ 予算執行（図書費や消耗費、GTEC受験等）に関わる共通理解
 - ・ 先進校視察
 - ・ 指導事例集の作成、文部科学省による実地調査 等
- ・ 3つの部会を組織し、部会ごとに活動
 - 授業研究部…教員の指導力・英語力向上・教材作成、年間計画作成
 - 評価研究部…評価方法の工夫・改善（授業中の活動における見取り方も含む）、学習到達目標の活用
 - 普及研究部…情意面に関するアンケートとGTECの結果分析、県内全域への成果の普及、小中高の指導と評価のつながり

④中高英語担当教員連絡会

- ・ 出席者 中高英語担当教員
- ・ 回数 原則的に年間3回開催（必要があればその都度開催）
- ・ 協議内容
 - ・ 指導と評価の一体化、生徒の自己評価における学習到達目標の活用
 - ・ GTECの結果分析と今後の指導方針
 - ・ 勝山を扱った独自教材の開発
 - ・ 中高における学習内容の高度化に対応するための指導内容とその方法、評価

⑤公開授業・研究会協議会

- ・ 研究校が「事前検討会」と「公開授業・研究協議会」を実施（2回/年）、52回以上実施
 - ・ 運営指導委員である県内大学教授が、授業研究の助言者として参加（1回/年）
 - ・ 県教委や教育研究所英語ユニットが、授業研究の助言者として参加（1回/年）
- ・ 県教委担当者が教育情報フォーラムにおいて、公開授業・研究協議会の成果を発信
- ・ 県内の多くの教員が参加できるよう、案内を県内の全小中高に配付

⑥英語加配教員

- ・勝山市が独自に雇用予定の支援員（2名）とともに、小学校の研究校を巡回し、ティーム・ティーチングの形態で担任の授業力・英語力向上を支援（3人が3中学校下の小学校を学期ごとに担当）

⑦教育研究所（英語ユニット）

- ・授業研究を支援
- ・学習到達目標を活用して、指導と評価の一体化を推進、そのための研修会の開催
- ・公開授業・研究協議会、小中高連絡協議会、評価委員会、運営指導委員会への出席

⑧県教委、事務局

- ・新たに勝山北部中学校に県ALTを雇用予定（市内の全中学校に県ALTが配置されることになり、校下の小学校への指導も実施）
- ・勝山市教育委員会との連携
 - ・英語加配教員と勝山市独自雇用予定の日本人補助講師(2名)を小学校の研究校で活用
 - ※日本人補助講師の条件・資格…教諭免許状を有する、若しくは英語指導に関して高い知識と力量のある人
 - ・勝山市雇用CIRを小学校の研究校で活用
 - ・研究体制構築の支援
 - ・授業力向上のための指導・助言
 - ・教育研究所との協働研究体制構築
 - ・先進校視察のための情報提供
 - ・予算執行（図書費や消耗費、GTEC受験等）に関わる共通理解
 - ・先進校視察
 - ・指導事例集の作成
 - ・文部科学省による実地調査 等
- ・評価研究部と連携して、教育情報フォーラムで成果を発信
- ・公開授業・研究協議会の案内を県内の全小中高に配付
- ・外部有識者と連絡・調整を図り、運営指導委員会を開催
- ・普及研究部と連携して、教育情報フォーラムで成果を発信

○平成27年度の進捗状況・課題

①運営指導委員会

- ・3回の会議を開催予定していたが、大学教授による授業研究が2学期・3学期に集中したため、2月に実施予定。本事業の成果と課題、短時間学習の在り方とその実施内容や評価の在り方等について審議する予定である。

②評価委員会

評価研究部や普及研究部での取組・分析内容について、大学教授を招いてさらに精査している。

[第1回評価委員会]（12月）

今年度の取組報告、各専門部報告、公開授業・研究協議会報告、教授から指導・助言年間計画の立案や評価の在り方について、大学教授から指導・助言を受けた。

[第2回評価委員会]（2月）

アンケート結果分析、来年度の年間計画、評価規準・基準、教授から指導・助言

③小中高連絡協議会

○今年度研究校が8校増えた（小学校6校、中学校2校）ため、昨年度のように全研究校の管理職や研究主任による「小中高連絡協議会」を行うことが難しくなった。そのため、勝山市教育委員会の指導により「英語推進協議会（代表者会議）」を組織し、各専門部代表者（部長・副部長・推進員）、専科教員による会議とした。

[第1回小中高連絡協議会]（5月）

- ・事業の概要説明、設置委員会、依頼事項を協議

- ・研究校の増加により、従来のように会議を実施することが難しいという意見が出され組織の再編についても協議

[第1回英語推進協議会（代表者会議）]（10月）

各専門部からの取組報告、来年度の小学校における授業実施時数等を協議

- [第2回勝山市英語推進協議会] (3月予定)
各専門部からの取組報告、来年度の取組
- 市校長会や教頭会でも本事業に関する議題を取上げ、様々な会議を活用してタイムリーに協議している。
- 専門部の活動
- ・授業研究部
 - [第1回授業研究部会] (11月)
部会の取組、年間指導計画の見直し、各学年担当者によるグループワーク、小中の接続部分について確認
 - [第2回授業研究部会] (12月)
3学期の授業内容(各学年担当者同士のグループワーク)、来年度の年間指導計画
 - ・評価研究部
 - [第1回評価研究部会] (8月)
平成26年度の経過報告・部会の取組内容説明、今年度の取組計画
 - [第2回評価研究部会] (10月)
2学期の通知票「評価の観点について」、指導要録の形式、英検Jr.とGTEC受験小中連携
 - ・普及研究部

評価研究部の負担が大きいため、普及研究部が情意面に関するアンケート、GTECの結果分析を行うこととした。

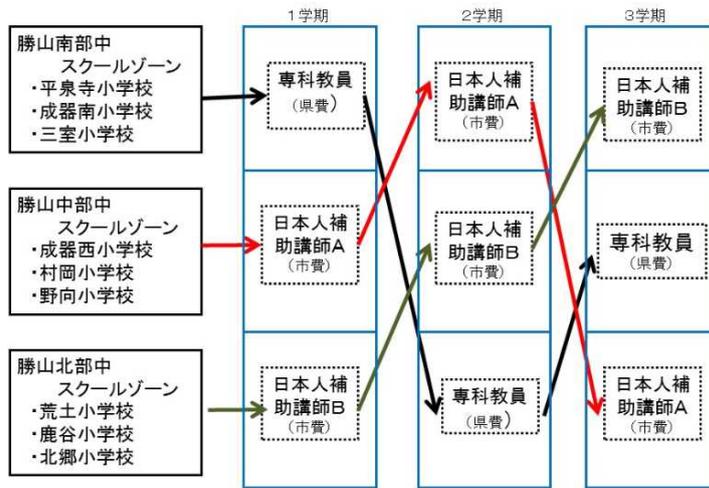
 - [第1回普及研究部会] (8月)
部会の年間計画、情意面のアンケート(集計方法等について)
 - [第2回普及研究部会] (9月)
アンケートの結果分析(市全体)、考察についての協議・確認、報告書のまとめ方
 - [第3回普及研究部会] (10月)
各校のアンケート結果、考察の共通点と問題点、進捗状況チェックリストについて
 - [第4回普及研究部会] (12月)
英語推進協議会報告、各校の実践事例に係る報告、第2回情意面のアンケート、実施経過報告・実施報告書
 - [第5回普及研究部会] (1月)
アンケート結果分析
- ④中高英語担当教員連絡会
ベネッセ担当者を招いて、GTECの結果分析等を3回実施した。
- [第1回中高英語担当教員連絡会] (5月)
GTEC概要説明(新規研究校対象 ベネッセが説明)、昨年度のGTECの結果分析
 - [第2回中高英語担当教員連絡会] (10月)
GTEC(7月受検)の市全体結果分析、今後の各校の取組
 - [第3回中高英語担当教員連絡会] (2月)
GTE分析(12月受検)、今後の各校の取組
- ⑤公開授業・研究会協議会
- ・対象：県内の小・中・高等学校の外国語(英語)教育担当教員等
 - ・実施回数：研究校が年2回(事前検討会を含めて、延べ52回実施)
 - ・具体的取組、成果
 - [事前研究会] 公開授業担当教員(研究指定校)の授業を大学教授や県教委指導主事が事前に参観、指導案の検討を含めて指導・助言
 - [公開授業] 勝山市だけでなく、地域、校種を超えて県内全域の外国語教育担当教員等を対象に公開
 - [研究協議会] 公開授業の内容等について、小中高の教員が忌憚のない意見を述べ合い、校種間で課題を共有、大学教授と県教委指導主事が指導・助言
 - [成果]
 - ・本事業の取組を域外の学校へ波及
 - ・異校種の教員が参観、意見交換することで校種ごとの教育課題を共有、校種間の接続を円滑
 - ・大学教授の理論に裏打ちされた指導・助言により、教員の研修機会が増加
 - ・県教委指導主事が毎回指導・助言に入ること、年間を見通した課題把握が可能となり、スパイラル的な改善を促進

- ・言語活動を通して生徒は学習に対する意欲や英語による表現力が向上、教員の授業力も向上
- ・公開授業や研究協議会の様子を実践資料集（CDを含む）、DVDにまとめ県内の全小中高校に配付（年間2回）、教育情報フォーラムに掲載、成果を普及

⑥英語加配教員（専科教員）

- ・2名の支援員とともに、3人が3中学校下の小学校を学期ごとに担当
- ・3人が同じ指導で担任を指導できるよう、毎週金曜日（5限目）に打合せ会を実施
- ・教員とのティーム・ティーチングを通して、小学教員の授業力向上に貢献
 - 話したいことや聞きたいことを伝え合う活動を行うための指導方法を理解
 - 英語を使っのデモンストレーション
 - 教室英語の使用

- ・専科教員が3校を巡回指導する仕組み



- ・専科教員・支援員の配置

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
勤務校	終日：成器西小学校 (兼学校)	午前：村岡小学校 午後：野向小学校	終日：成器西小学校	終日：野向小学校	終日：村岡小学校
1 限	A小学校	B小学校	成器西小 5年	C小学校	B小学校
2 限	成器西小 5年	村岡小学校 6年	A小学校	野向小学校 5年	村岡小学校 5年
3 限		村岡小：次回の授業の 打ち合わせ	成器西小 6年2組		
4 限	成器西小 6年1組	【移 動】			村岡小学校 6年
給 食	【成器西小学校】	【野向小学校】	【成器西小学校】	【野向小学校】	【村岡小学校】
5 限	成器西小 6年2組	野向小学校 5年 C小学校		野向小学校 6年	英語専任教員の 打合せ
6 限		野向小学校 6年	成器西小 6年1組		打合わせ
放課後	・成器西小：次回の 授業の打ち合わせ ・小中連絡協議会 (毎月)	野向小：次回の授業の 打ち合わせ	成器西小：次回の授業の 打ち合わせ	野向小：次回の授業の 打ち合わせ	村岡小：次回の授業の 打ち合わせ

⑦教育研究所（英語ユニット）

- ・CAN-DO リスト研究会を開催、指導と評価の一体化について研修
 - [第1回 CAN-DO リスト研究会]（7月）
実践経過報告、東京外国語大学教授による講義「CAN-DO リストを活用した指導と評価」
 - [第2回 CAN-DO リスト研究会]（1月）
実践経過報告、児童・生徒用 CAN-DO リスト・自己評価表を活用した授業実践

- パフォーマンステストの評価方法、東京外国語大学教授による講義「CAN-DO リストを活用した指導と評価の一体化」
- ・すべての公開授業・研究協議会に参加し、指導・助言

⑧ 県教委、事務局

- ・8月に勝山北部中学校に県ALTを配置し、中学校の研究校に1人ずつALTが配置されている。今後、中学校の授業を考慮して、校下の小学校での指導を検討予定。
- ・勝山市教育委員会と連携を密にして、研究体制構築の支援、専科教員の活用、事前検討会・公開授業・研究協議会の実施、外部検定試験等を実施した。特に、県教委と勝山市教育委員会の協働により、小中高での連携した取組が推進されている。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○教育研究所・県教委との協働による授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・4/27 平泉寺小学校 (2校時) ・4/28 成器南小学校 (2校時) 鹿谷小学校 (4校時) ・4/30 荒土小学校 (2校時) 勝山南部中学校 (4校時) 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○情意面に関するアンケート実施 (研究校全校) ○第1回小学校英語担当教員連絡会(5/7) <ul style="list-style-type: none"> ※専科教員が説明 ①小学校外国語活動・英語科の授業の進め方 ②年間指導計画の活用について、読む・書くことの指導 ③4技能に係る活動・評価 ④質疑応答 ○第1回小中高連絡協議会(5/13) <ul style="list-style-type: none"> ①事業の概要説明・質疑応答 ②設置委員会について ③小中高連絡協議委員会の各部の組織 ④各組織への依頼事項 ⑤先進校視察 ○第1回中高英語担当教員連絡会(5/27) <ul style="list-style-type: none"> ①GTEC概要説明 (新規研究校対象 ベネッセが説明) ②昨年度のGTECの結果分析 <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度勝山市結果分析 (ベネッセが説明) ・平成27年度の取組 (実施計画 等) ○教育研究所・県教委との協働による授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・5/1 北郷小学校 (2校時) 勝山北部中学校 (4校時) ○事前検討会、公開授業・授業研究会① <ul style="list-style-type: none"> ・5/11 三室小学校 (事前検討会) <ul style="list-style-type: none"> 5・6校時：3・4年 外国語活動 ・5/12 勝山南部中学校 (事前検討会) <ul style="list-style-type: none"> 6校時、放課後：1年 英語科 ・5/15 成器西小学校 (事前検討会) <ul style="list-style-type: none"> 5・6校時：6年 英語科 ・5/18 村岡小学校 (事前検討会) <ul style="list-style-type: none"> 6校時、放課後：4年 外国語活動 ・5/21 鹿谷小学校 (事前検討会) <ul style="list-style-type: none"> 6校時、放課後：6年 英語科 ・5/25 勝山中部中学校 (事前検討会) <ul style="list-style-type: none"> 6校時、放課後：2年 英語科 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・5/26 三室小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：3・4年 外国語活動 ・5/28 成器西小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：6年 英語科 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回小学校英語担当教員連絡会(6/26) <ul style="list-style-type: none"> ①小学校英語科の評価（専科教員が説明） ②評価方法（グループワーク） ○事前検討会、公開授業・授業研究会② <ul style="list-style-type: none"> ・6/ 1 村岡小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時：4年 外国語活動 ・6/ 1 勝山高校（事前検討会） 5・6校時：2年 コミュニケーション英語Ⅱ ・6/ 2 成器南小学校（事前検討会） 6校時、放課後：5年 英語科 ・6/ 4 平泉寺小学校（事前検討会） 5・6校時、放課後：6年 英語科 ・6/ 5 鹿谷小学校（公開授業・授業研究会） 6校時、放課後：1年 英語科 ・6/ 8 北郷小学校（事前検討会） 5・6校時、放課後：3年 外国語活動 ・6/11 勝山高校（公開授業・授業研究会） 5・6校時：2年 コミュニケーション英語Ⅱ ・6/12 勝山南部中学校（公開授業・授業研究会） 6校時、放課後：6年 英語科 ・6/15 勝山中部中学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：2年 英語科 ・6/16 野向小学校（事前検討会） 6校時、放課後：6年 英語科 ・6/17 北郷小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：3年 外国語活動 ・6/23 平泉寺小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：6年 英語科 ・6/25 野向小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：6年 英語科 ・6/30 成器南小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：5年 英語科 ・6/30 荒土小学校（事前検討会） 6校時、放課後：4年 外国語活動 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回 CAN-DO リスト研究会（教育研究所主催）に参加(7/30) <ul style="list-style-type: none"> ①実践経過報告（教育研究所 英語ユニット） ②講義「CAN-DO リストを活用した指導と評価」（東京外国語大学教授） ○GTEC受験（中3、高1・3年） <ul style="list-style-type: none"> ・7/ 7 勝山北部中学校 3年生（44名） ・7/ 9 勝山高校 1年生（140名） ・7/10 勝山中部中学校 3年生（80人） <li style="padding-left: 40px;">勝山南部中学校 3年生（78名） <li style="padding-left: 40px;">勝山高校 3年生（137名） ○先進校視察 <ul style="list-style-type: none"> ・7/ 2 岐阜県大垣市立中川小学校を訪問 専科教員、平泉寺小、成器南小、成器西、三室小の教員5名が参加 <li style="padding-left: 40px;">岐阜県大垣市立中川小学校・星和中学校を訪問 各中学校教員3名が参加 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○勝山市教育研究会(8/3) <ul style="list-style-type: none"> ※市内幼・小・中全教員対象研修会にて ①英語教育強化地域拠点事業に関する概要・研究組織について説明（市教委） 	

	<p>②部会ごとに打合せ（推進員決定・諸連絡等）</p> <p>○確かな学力向上推進全体研修会（授業改善等(8/12) ※市教委開催 ・講演「これからの英語教育の充実に向けて求められること」 文部科学省初等中等教育局 直山木綿子 教科調査官 ・市内幼・小・中全教員対象講演会、勝山高校校長・英語科教員も参加</p> <p>○第1回普及研究部会(8/24) ①部会の年間計画（市教委説明） ②アンケート（集計方法等について） ③質疑応答</p> <p>○第1回中学校英語担当教員連絡会(8/24) ※組織図にない ・自己評価表の検討</p> <p>○第1回評価研究部会(8/26) ①平成26年度の経過報告・部会の取組内容説明（部長説明） ②今年度の取組計画</p> <p>○事前検討会、公開授業・授業研究会③ ・8/25 荒土小学校（事前検討会） 13:00～15:00：4年 外国語活動</p>	
9月	<p>○第3回小学校英語担当教員連絡会(9/30) ①2学期の授業の進め方・評価（専科教員が説明） （学習到達目標、5・6年生の評価規準・評価基準） ②英語に関する資料の蓄積・共有（市教委）</p> <p>○第2回普及研究部会(9/29) ①アンケートの分析（市全体） ②考察についての協議・確認 ③質疑応答（報告書のまとめ方について）</p> <p>○事前検討会、公開授業・授業研究会④ ・9/15 荒土小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：4年 外国語活動</p>	
10月	<p>○第2回評価研究部会(10/14) ①2学期の通知票「評価の観点について」 ②指導要録の形式 ③英検Jr.とGTEC受験 ④小中連携</p> <p>○第3回普及研究部会(10/21) ①各校のアンケート結果分分析 ②考察の共通点と問題点 ③質疑応答（進捗状況チェックリストについて）</p> <p>○第2回中高英語担当教員連絡会(10/26) ①GTEC（7月受検）の市全体結果分析（ベネッセ説明） ②分析を受けて、今後の各校の取組</p> <p>○第1回勝山市英語推進協議会（代表者会議）(10/27) ①各専門部からの取組報告（各専門部長・代表者より） ②来年度の取組について ③来年度の小学校における授業実施時数（県教委が説明） ④質疑応答</p> <p>○事前検討会、公開授業・授業研究会⑤ ・10/1 成器西小学校（事前検討会）</p>	

	<p>5・6校時、放課後：4年 外国語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/ 5 三室小学校（事前検討会） 5・6校時、放課後：5・6年 英語科 ・10/ 8 鹿谷小学校（事前検討会） 5・6校時：5年 英語科 ・10/16 北郷小学校（事前検討会） 5・6校時、放課後：6年 英語科 ・10/22 平泉寺小学校（事前検討会） 5・6校時、放課後：3・4年 外国語活動 ・10/23 三室小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：5・6年 英語科 ・10/26 勝山北部中学校（事前検討会） 6校時、放課後：2年 英語科 ・10/27 野向小学校（事前検討会） 6校時、放課後：3・4年 外国語活動 ・10/28 北郷小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：6年 英語科 <p>○先進校視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/13 立命館宇治高等学校を訪問 高校教員2名が参加 	
11月	<p>○第1回授業研究部会(11/4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①部会の取組（市教委説明） ②年間指導計画の見直し 専科教員が説明後、各学年担当者によるグループワーク、小中の接続部分について確認 等 <p>○事前検討会、公開授業・授業研究会⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/ 2 村岡小学校（事前検討会） 6校時、放課後：5年 英語科 ・11/ 5 成器西小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：4年 外国語活動 ・11/ 5 勝山高校（事前検討会） 6校時、放課後：1年 コミュニケーション英語 I ・11/ 6 平泉寺小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：3・4年 外国語活動 ・11/ 9 荒土小学校（事前検討会） 5・6校時、放課後：5年 英語科 ・11/10 勝山北部中学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：2年 英語科 ・11/11 成器南小学校（事前検討会） 6校時、放課後：4年 外国語活動 ・11/11 勝山南部中学校（事前検討会） 6校時、放課後：3年 英語科 ・11/13 野向小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：3・4年 外国語活動 ・11/17 勝山高校（公開授業・授業研究会） 6校時、放課後：1年 コミュニケーション英語 I ・11/24 鹿谷小学校（事前検討会） 5・6校時、放課後：5年 英語科 ・11/25 成器南小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：4年 外国語活動 ・11/30 村岡小学校（公開授業・授業研究会） 5・6校時、放課後：5年 英語科 	
12月	<p>○第4回普及研究部会(12/16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①英語推進協議会報告（市教委） ②各校の実践事例に係る報告（研究協議会のまとめ） ③第2回アンケートについて ④質疑応答（実施経過報告・実施報告書について） 	<p>○評価委委員① (12/24)</p> <p>①今年度の取組報告 勝山市全体・研究組織について (市教委・県教委)</p>

	<p>○第2回授業研究部会(12/24)</p> <p>①3学期の授業内容(各学年担当者同士のグループワーク)</p> <p>②来年度の年間指導計画 (計画案の検討、指導計画担当者確認)</p> <p>○事前検討会、公開授業・授業研究会⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/3 勝山南部中学校(公開授業・授業研究会) 6校時、放課後:3年 英語科 ・12/10 鹿谷小学校(公開授業・授業研究会) 5・6校時、放課後:5年 英語科 ・12/17 荒土小学校(公開授業・授業研究会) 5・6校時、放課後:5年 英語科 <p>○GTEC受験(中2、中3、高1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/15 勝山高校 2年生(133名) ・12/16 勝山高校 1年生(140名) ・12/17 勝山南部中学校 3年生(77名) 勝山北部中学校 3年生(45名) ・12/18 勝山中部中学校 3年生(79名) 	<p>②各専門部報告 (各部推進員)</p> <p>③公開授業・研究協議会報告等</p> <p>④大学教授から指導助言 (評価、専門部の取組内容等)</p>
1月	<p>○情意面に関するアンケート実施(研究校全校)</p> <p>○第5回普及研究部会(1/29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果分析 <p>○第2回CAN-DOリスト研究会(教育研究所主催)に参加(1/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実践経過報告(教育研究所 英語ユニット) ②児童・生徒用CAN-DOリスト・自己評価表を活用した授業実践 ②パフォーマンステストの評価方法 ③講義「CAN-DOリストを活用した指導と評価の一体化」 (東京外国語大学教授) <p>○全国連絡協議会に参加(1/21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専科教員、勝山高校英語教員、県教委担当者(3名)参加 <p>○事前検討会、公開授業・授業研究会⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/18 勝山中部中学校(事前検討会) 5・6校時、放課後:2年 英語科 ・1/27 勝山中部中学校(公開授業・授業研究会) 5・6校時、放課後:2年 英語科 ・1/28 勝山北部中学校(事前検討会) 6校時、放課後:1年 英語科 <p>○GTEC Jr.(小学校版)モニター受験(1月~2月) 小学5・6年生全員が受験</p> <p>○英検 Jr. 学校版受験(小学6年生全員が受験)</p> <p>※各小学校6年生 ブロンズ級を受験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/13 成器西小学校 6年生(38人) ・1/19 鹿谷小学校 6年生(14人) ・1/25 三室小学校 6年生(4人) ・1/26 荒土小学校 6年生(17人) ・1/27 村岡小学校 6年生(32人) 北郷小学校 6年生(17人) ・1/28 野向小学校 6年生(9人) 平泉寺小学校 6年生(4人) 成器南小学校 6年生(67人) 	

2月	<p>○第3回中高英語担当教員連絡会 ①GTE分析(12月受検) ②今後の各校の取組学習指導</p> <p>○事前検討会、公開授業・研究発表会⑨ ・2/12 勝山北部中学校(公開授業・授業研究会) 6校時、放課後:1年 英語科</p> <p>○GTEC Jr.(小学校版)モニター受検(1月~2月) 小学5・6年生全員が受検</p> <p>○GTEC受検 ・2/5 勝山南部中学校 2年生(88名) 勝山北部中学校 2年生(35名) ・2/10 勝山中部中学校 2年生(57名)</p> <p>○GTECスピーキングテスト モニター受検 中学1・2年生全員が受検</p>	<p>○評価委員会② ○第2回評価研究委員会 ①アンケート結果分析 ②来年度の年間計画 ③評価規準・基準 ④大学教授から指導助言</p> <p>○第1回運営指導委員会 ①今年度の取組 ・成果と課題 ・英語科での読む・書く活動 ②来年度の方針</p>
3月	<p>○第2回勝山市英語推進協議会(代表者会議) ①各専門部からの取組報告(各専門部長・代表者より) ②来年度の取組について ③質疑応答</p>	
<p>【その他の取組】※あれば記入</p> <p>○研究校における公開授業の案内を県内の全小中高に配付</p> <p>○公開授業の実践や小中高の研究の成果を「教育情報フォーラム(教育研究所HP)」に掲載</p> <p>○研究成果を実践資料集、CD、DVDにまとめ県内の全小中高校に配付(年間2回)、教育情報フォーラムに掲載、成果を普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/3 昨年度の「英語教育強化地域拠点事業」の取組について ・4/20 小学校の新たな外国語教育における補助教材について ・5/11 英語教育強化地域拠点事業の実践事例集について ・5/18 英語教育強化地域拠点事業の授業実践映像資料について ・5/28 英語教育強化地域拠点事業の公開授業について ・6/3 昨年度の英語教育強化地域拠点事業の授業研究について ・7/14 実践記録 (成器西小学校) ・8/10 実践記録 (三室小学校) ・8/18 授業実践記録1 (勝山南部中学校) ・8/20 実践記録 (村岡小学校) ・8/21 授業実践記録2 (勝山中部中学校) ・8/26 授業実践記録3 (勝山高校) ・9/11 実践記録 (鹿谷小学校) ・9/14 授業実践記録4 (三室小学校) ・9/30 授業実践記録5 (成器西小学校) ・10/2 授業実践記録6 (村岡小学校) ・10/6 実践記録 (勝山中部中学校) ・10/20 授業実践記録7 (鹿谷小学校) ・10/29 実践記録 (北郷小学校) ・10/31 授業実践記録8 (北郷小学校) ・11/2 授業実践記録9 (平泉寺小学校) ・11/5 授業実践記録10 (野向小学校) ・11/9 授業実践記録11 (成器南小学校) ・11/28 実践事例集の配布 ・11/30 実践記録 (平泉寺小学校) ・1/5 実践記録 (野向小学校) 		